

# FUJITSU Software Big Data Integration Server V1.4.0



# EDI連携編 ユーザーズガイド

Linux

J2UL-2692-02Z0(00) 2022年4月

# まえがき

## 本書の目的

本書は、Big Data Integration Server(以降、本製品と略します)のEDI連携機能の運用について説明しています。

#### 本書の読者

本書は、以下の読者を対象としています。

・ 本製品のEDI連携機能の運用管理を担当する方

#### 前提知識

本書を使用するためには、以下の知識が必要です。

- Linuxに関する知識
- ・ Apache Tomcatに関する知識
- ACMS Apexに関する知識
- FUJITSU Software Enterprise Postgresに関する知識
- FUJITSU Software Interstage Information Qualityに関する知識

#### 本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

本章				
第1章 システムを運用する システムの起動、停止、および状態確認の方法について説明します。				
第2章 EDI連携機能の利用	EDI連携について説明します。			
第3章トラブルシューティング 本機能でトラブルが発生した際の調査方法について説明します。				
付録				
付録A 設定パラメーター	本機能で提供するEDI連携機能に関するパラーメーターについて説明します。			
付録B 定義ファイル	本機能のアクセス権限コントロール機能で使用するファイルについて説明します。			
付録Cポート一覧	本機能で使用するポート一覧について説明します。			

# 製品名の表記

本書中の略称は以下のとおりです。

略称	正式名称	
Linux、または、 Red Hat Enterprise Linux	Red Hat(R) Enterprise Linux(R)	
HDFS	Hadoop Distributed File System	
ACMS Apex	FUJITSU Software ACMS Apex EDI-BASE (注)	
FJCloud-O	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O	

注) 本製品が対象としている製品は、富士通の商品である「FUJITSU Software ACMS Apex EDI-BASE」です。

# 製品マニュアル

本製品のマニュアルには以下があります。

収集編では、本製品のログ収集およびメッセージングについて説明しています。

加工編では、本製品のスキーマレス加工およびディスク検索について説明しています。

分散処理編では、本製品の並列分散処理について説明しています。

EDI連携編では、本製品のEDI連携機能について説明しています。

検索編では、本製品のインメモリ検索について説明しています。

マニュアル名称	正式マニュアル名		
リリース情報	FUJITSU Software Big Data Integration Server リリース情報		
利用ガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 利用ガイド		
移行ガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 移行ガイド		
収集編 ユーザーズガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 収集編 ユーザーズガイド		
加工編 導入・運用ガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 加工編 導入・運用ガイド		
加工編リファレンス集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 加工編 リファレンス集		
加工編メッセージ集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 加工編メッセージ集		
加工編 QA集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 加工編 QA集		
分散処理編 ユーザーズガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 分散処理編 ユーザーズガイド		
EDI連携編 ユーザーズガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server EDI連携編 ユーザーズガイド		
検索編 導入・運用ガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 導入・運用ガイド		
検索編 アプリケーション開発ガイド	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 アプリケーション開発ガイド		
検索編コマンドリファレンス	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 コマンドリファレンス		
検索編 Java API リファレンス	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 Java API リファレンス		
検索編 C API リファレンス	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 C API リファレンス		
検索編メッセージ集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編メッセージ集		
検索編トラブルシューティング集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編トラブルシューティング集		
検索編 用語集	FUJITSU Software Big Data Integration Server 検索編 用語集		
FJQSS(資料採取ツール) ユーザーズガイド	FUJITSU Software FJQSS(資料採取ツール) ユーザーズガイド		

製品マニュアルの内容を参照する場合は、製品媒体の下記場所に格納されているそれぞれのマニュアルを参照してください。

DISK1:本製品マニュアル

DVDのドライブ名:\pi SK1\pi manual\pi ja\pi index. html

## 商標

- ・ Linux(R) は、米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Apache Atlas、Apache Hadoop、Apache Hive、Apache Ranger、Apache Spark、Apache Tomcat、Apache ZooKeeper、HDFSは、The Apache Software Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Pythonは、Python Software Foundationの登録商標です。
- ・ ACMS Apexは株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。
- Interstageは、富士通株式会社の登録商標です。
- Eclipseは米国およびその他の国における Eclipse Foundation, Inc. の商標または登録商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

なお、本書では、システム名または製品名に付記される登録表示((TM)または(R))は、省略しています。

## 輸出管理規制

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

## 出版年月および版数

版数	マニュアルコード	形式
2022年 4月 第2時	J2UL-2692-02Z0(00)	PDF
2022年 4月 第2版	J2UL-2692-02Z2(00)	HTML
2021年7月初版	J2UL-2692-01Z0(00)	PDF
	J2UL-2692-01Z2(00)	HTML

## 著作権表示

Copyright 2021-2022 FUJITSU LIMITED

# <u>目</u>次

第1章 システムを運用する	1
1.1 起動する	
1.1.1 並列分散処理の起動	1
1.1.2 セキュリティ管理機能の起動	1
1.1.3 メタデータ管理機能の起動	2
1.1.4 コード変換定義作成支援機能の起動	
1.1.4.1 httpdの起動	
1.1.4.2 コード変換定義作成支援機能の起動	
1.1.5 格納抽出APIの起動	
1.1.5.1 FUJITSU Software Enterprise Postgresの起動	
1.1.5.2 ACMS Apexの起動	
1.1.5.3 Apache Tomcatの起動	
1.1.6 カスタマバーコード変換Web APIの起動	
1.1.6.1 FUJITSU Software Interstage Information Qualityの起動	
1.1.6.2 Apache Tomcatの起動	
1.1.7 アクセス権限コントロールの起動	
1.1.7.1 httpdの起動	
1.1.7.2 アクセス制御エンジンの起動	
1.1.7.3 アクセスルール設定サービスの起動	
1.1.7.3.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合	
1.1.7.3.2 Apache Tomcatを使用している場合	
1.1.7.5.2 Apacite Tollicate 反用している場合	
1.2.1 アクセス権限コントロールの停止	
1.2.1.1 アクセスルール設定サービスの停止	
1.2.1.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合	
1.2.1.1.2 Apache Tomcatを使用している場合	
1.2.1.2 Apacite Tollicate 使用している場合	
1.2.1.3 httpdの停止	
1.2.2.1 コード変換定義作成支援機能の停止	
1.2.2.2 httpdの停止	
1.2.3 格納抽出APIの停止	
1.2.3.1 Apache Tomcatの停止	
1.2.3.2 ACMS Apexの停止	
1.2.3.3 FUJITSU Software Enterprise Postgresの停止	
1.2.4 カスタマバーコード変換Web APIの停止	
1.2.4.1 Apache Tomcatの停止	
1.2.4.2 FUJITSU Software Interstage Information Qualityの停止	
1.2.5 メタデータ管理機能の停止	
1.2.6 セキュリティ管理機能の停止	
1.2.7 並列分散処理の停止	
1.3 状態を確認する	
1.3.1 コード変換定義作成支援機能の状態確認	
1.3.2 格納抽出APIの状態確認	
1.3.2.1 Apache Tomcatの状態確認	
1.3.3 カスタマバーコード変換Web APIの状態確認	
1.3.3.1 Apache Tomcatの状態確認	
1.3.4 アクセス権限コントロールの状態確認	
1.3.4.1 アクセス制御エンジンの状態確認	
1.3.4.2 アクセスルール設定サービスの状態確認	
1.3.4.2.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合	
1.3.4.2.2 Apache Tomcatを使用している場合	9
MOST FOUR HEAVE ON THE	
第2章 EDI連携機能の利用	10

2.2 変換ルール作成GUI	1.0
2.2 変換ルール作成GUI	
2.4 格納抽出API         2.4.1 データ格納準備API	
2.4.1.1 概要	
2.4.1.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.1.3 レスポンス設計	
2.4.1.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.1.3.2 HTTPステータスコード	
2.4.1.4 メッセージボディ	
2.4.1.5 エラーメッセージ	
2.4.1.6 キャッシュ	
2.4.1.7 注意事項	
2.4.2 データアップロードAPI	
2.4.2.1 概要	
2.4.2.2 リクエスト設計	
2.4.2.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.2.3 レスポンス設計	
2.4.2.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.2.3.2 HTTPステータスコード	
2.4.2.4 メッセージボディ	
2.4.2.5 エラーメッセージ	
2.4.2.6 キャッシュ	
2.4.2.7 注意事項	
2.4.3 データ検索API	
2.4.3.1 概要	
2.4.3.2 リクエスト設計	
2.4.3.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.3.3 レスポンス設計	
2.4.3.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.3.3.2 HTTPステータスコード	
2.4.3.4 メッセージボディ	
2.4.3.5 エラーメッセージ	
2.4.3.6 キャッシュ	
2.4.3.7 注意事項	
2.4.4 データダウンロードAPI	24
2.4.4.1 概要	
2.4.4.2 リクエスト設計	
2.4.4.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.4.3 レスポンス設計	
2.4.4.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.4.3.2 HTTPステータスコード	
2.4.4.4 メッセージボディ	
2.4.4.5 エラーメッセージ	
2.4.4.6 キャッシュ	27
2.4.4.7 注意事項	
2.4.5 検索用パラメータ定義内容取得API	28
2.4.5.1 概要	28
2.4.5.2 リクエスト設計	
2.4.5.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.5.3 レスポンス設計	
2.4.5.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.5.3.2 HTTPステータスコード	29
2.4.5.4 メッセージボディ	29
2.4.5.5 エラーメッセージ	30
2.4.5.6 キャッシュ	30

2.4.5.7 注意事項	
2.4.6 検索用パラメータ定義更新API	30
2.4.6.1 概要	30
2.4.6.2 リクエスト設計	
2.4.6.2.1 リクエストフォーマット	
2.4.6.3 レスポンス設計	
2.4.6.3.1 レスポンスフォーマット	
2.4.6.3.2 HTTPステータスコード	32
2.4.6.4 メッセージボディ	32
2.4.6.5 エラーメッセージ	32
2.4.6.6 キャッシュ	33
2.4.6.7 注意事項	
2.4.7 任意の認証サービスとの連携	
2.4.7.1 事前準備	
2.4.7.1.1 WARのインポート	33
2.4.7.1.2 EclipseへのTomcat登録	34
2.4.7.2 新規クラスの実装	34
2.4.7.3 設定ファイルの変更	36
2.4.7.4 WARのエクスポートと配備	36
2.4.7.4.1 WARのエクスポート	36
2.4.7.4.2 WARの配備	36
2.5 変換ルール実行機能	36
2.6 カスタマバーコード変換Web API	36
2.6.1 概要	36
2.6.2 リクエスト設計	37
2.6.2.1 リクエストフォーマット	37
2.6.3 レスポンス設計	37
2.6.3.1 レスポンスフォーマット	37
2.6.3.2 HTTPステータスコード	38
2.6.4 メッセージボディ	39
2.6.5 エラーメッセージ	39
2.6.6 キャッシュ	39
2.6.7 注意事項	39
2.7 アクセス権限コントロール	40
2.7.1 アクセス制御機能	
2.7.2 アクセスルール設定支援機能	41
2.7.2.1 ルール登録API	42
2.7.2.1.1 概要	42
2.7.2.1.2 リクエスト設計	42
2.7.2.1.3 レスポンス設計	42
2.7.2.1.4 メッセージボディ	43
2.7.2.1.5 キャッシュ	43
2.7.2.1.6 注意事項	43
2.7.2.2 ルール更新API	43
2.7.2.2.1 概要	
2.7.2.2.2 リクエスト設計	43
2.7.2.2.3 レスポンス設計	44
2.7.2.2.4 メッセージボディ	
2.7.2.2.5 キャッシュ	
2.7.2.2.6 注意事項	
2.7.2.3 ルール取得API	
2.7.2.3.1 概要	
2.7.2.3.2 リクエスト設計	
2.7.2.3.3 レスポンス設計	
2.7.2.3.4 メッセージボディ	
2.7.2.3.5 キャッシュ	
2.7.2.3.6 注意事項	
220.0 口心于 /	······ +\

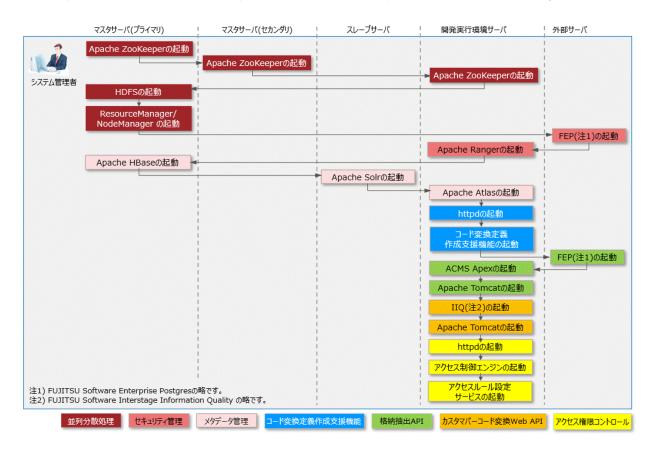
2.7.2.4 ルール削除API	46
2.7.2.4.1 概要	46
2.7.2.4.2 リクエスト設計	46
2.7.2.4.3 レスポンス設計	47
2.7.2.4.4 メッセージボディ	47
2.7.2.4.5 キャッシュ	47
2.7.2.4.6 注意事項	47
2.7.2.5 ユーザー一覧取得API	47
2.7.2.5.1 概要	47
2.7.2.5.2 リクエスト設計	47
2.7.2.5.3 レスポンス設計	48
2.7.2.5.4 メッセージボディ	49
2.7.2.5.5 キャッシュ	49
2.7.2.5.6 注意事項	49
2.7.2.6 情報区分コード取得API	49
2.7.2.6.1 概要	49
2.7.2.6.2 リクエスト設計	49
2.7.2.6.3 レスポンス設計	49
2.7.2.6.4 メッセージボディ	50
2.7.2.6.5 キャッシュ	50
2.7.2.6.6 注意事項	
2.7.2.7 アクセスルールを編集する画面	50
第3章 トラブルシューティング	
3.1 ログ	
3.1.1 アプリケーションログ	
3.1.2 通信ログ	
3.1.3 ログローテーション	53
付録A 設定パラメーター	55
A.1 conv.properties.	55
A.2 setting properties	
A.3 cb_setting.properties	
A.4 microprofile-config.properties	
付録B 定義ファイル	50
B.1 アクセスルール	
B.1.1 記述形式	
B.1.2 データ構造の定義	
B.1.2.1 meta_info.	
B.1.2.2 permission.	
B.1.3 サンプル	
付録C ポート一覧	e.
1) <b>詠し ハート</b> - 見	
C.1 コート変換足義作成文接機能で使用するホート一覧	
C.3 カスタマバーコード変換Web APIで使用するポート一覧	
C.4 アクセス権限コントロールで使用するポート一覧	
- しオテラ 5/7年四年(11 /1 / 区区/17 アジタケード - 見	

# 第1章 システムを運用する

本章では、並列分散処理、データガバナンス機能(メタデータ管理とセキュリティ管理)および個別管理データの抽出と変換(コード変換定義作成支援機能、格納抽出API、カスタマバーコード変換Web API、およびアクセス権限コントロール)を導入したシステムの起動、停止、および状態確認の方法について説明します。

# 1.1 起動する

本機能を導入したシステムを起動する際には、各サーバのOSを起動した後、以下の順序で起動してください。



# 1.1.1 並列分散処理の起動

並列分散処理を起動します。



並列分散処理の起動方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"並列分散処理の起動"を参照してください。

# 1.1.2 セキュリティ管理機能の起動

データガバナンスのセキュリティ管理機能を使用する場合、並列分散処理を起動した後、セキュリティ管理機能を起動してください。



セキュリティ管理機能の起動方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"セキュリティ管理機能の起動"を参照してください。

# 1.1.3 メタデータ管理機能の起動

データガバナンスのメタデータ管理機能を使用する場合、並列分散処理を起動し、スレーブサーバのOSを起動した後、メタデータ管理機能を起動してください。



#### 参照

メタデータ管理機能の起動方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"メタデータ管理機能の起動"を参照してください。

# 1.1.4 コード変換定義作成支援機能の起動

コード変換定義作成支援機能を使用する場合、以下の順序で起動してください。

# 1.1.4.1 httpdの起動

開発実行環境サーバで、httpdを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参照

httpdの起動方法については、Linuxのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.1.4.2 コード変換定義作成支援機能の起動

開発実行環境サーバで、以下を実行してコード変換作成支援機能を起動します。

- # cd /opt/FJSVbsb/bdpp/engine/codemapper-rest
- # export PIPENV\_PIPFILE=<コード変換定義作成支援機能で利用するPyenvのPipfileのPath(注1)>
- # export PYTHONPATH=/opt/FJSVbsb/bdpp/engine/codemapper-rest/bsb-site-packages
- # nohup pipenv run python -m codemapper\_restapi.main --host〈開発実行環境サーバのホスト名〉--port〈コード変換定義作成支援機能で利用するポート番号(注2)〉 〉〈任意のログ出力先〉2>&1 &
  - 注1) インベントリファイルのcodemapper\_pipenv\_pipfileに設定した値を指定
  - 注2) インベントリファイルのcodemapper\_portに設定した値を指定

# 1.1.5 格納抽出APIの起動

格納抽出APIを使用する場合、以下の順序で起動してください。

# 1.1.5.1 FUJITSU Software Enterprise Postgresの起動

FUJITSU Software Enterprise Postgresをインストールした外部サーバで、格納抽出APIに利用するデータベース機能を起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参昭

データベース機能の起動方法については、"FUJITSU Software Enterprise Postgres 運用ガイド"の"インスタンスの起動と停止"を参照し てください。

# 1.1.5.2 ACMS Apexの起動

開発実行環境サーバで、ACMS Apexを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参照

ACMS Apexの起動方法については、ACMS Apexの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを参照してください。

# 1.1.5.3 Apache Tomcatの起動

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを起動します。



#### 参照

Apache Tomcatの起動方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.1.6 カスタマバーコード変換Web APIの起動

カスタマバーコード変換Web APIを使用する場合、以下の順序で起動してください。

# 1.1.6.1 FUJITSU Software Interstage Information Qualityの起動

開発実行環境サーバで、FUJITSU Software Interstage Information Qualityを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参照

FUJITSU Software Interstage Information Qualityの起動方法については、FUJITSU Software Interstage Information Qualityの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを参照してください。

# 1.1.6.2 Apache Tomcatの起動

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参照

Apache Tomcatの起動方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.1.7 アクセス権限コントロールの起動

アクセス権限コントロールを使用する場合、以下の順序で起動してください。

# 1.1.7.1 httpdの起動

開発実行環境サーバで、httpdを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。



#### 参照

httpdの起動方法については、Linuxのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.1.7.2 アクセス制御エンジンの起動

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセス制御エンジンを起動します。

# nohup /opt/FJSVbsb/bdpp/products/EDI\_COOPERATION/access\_policy/engine/bin/opa run --server --bundle /etc/opt/FJSVbsb/bdpp/access\_policy/policy --addr :<アクセス制御エンジンで使用するポート番号(注1)>>> /var/opt/FJSVbsb/bdpp/log/access\_control/opa/opa\_log.log 2>&1 &

注1) インベントリファイルのaccess\_policy\_engine\_portに設定した値を指定

## 1.1.7.3 アクセスルール設定サービスの起動

環境に合わせて下記のいずれかを実行し、アクセスルール設定サービスを起動します。

# 1.1.7.3.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセスルール設定サービスを起動します。

# nohup <JREまたはJDKのインストール先ディレクトリ(注1)>/bin/java -Dopa.url=http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<アクセス制御エンジンサーバのポート番号(注2)>/v1/data/fujitsu/sip/txdata -Dstorage.type=dav -Dstorage.url=http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<WebDAVサーバのポート番号(注3)>/policy -Dstorage.authtype=basic -Dstorage.user=bsb\_webdav -Dstorage.password=bsb\_webdav --add-opens java.base/jdk.internal.loader=ALL-UNNAMED -jar <Launcher(注4)の絶対パス(注5)> -deploy /opt/FJSVbsb/bdpp/products/EDI\_COOPERATION/access\_policy/manager/bin/sip1\_policy\_restapi.war --http-listener <Launcher(注4)で使用するポート番号(注6)> &

- 注1) インベントリファイルのjredirに設定した値を指定
- 注2) インベントリファイルのaccess\_policy\_engine\_portに設定した値を指定
- 注3) インベントリファイルのaccess\_policy\_storage\_portに設定した値を指定
- 注4) FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncher
- 注5) インベントリファイルのapi\_launcher\_pathに設定した値を指定
- 注6) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定

## 1.1.7.3.2 Apache Tomcatを使用している場合

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを起動します。すでに起動済の場合は、省略してください。

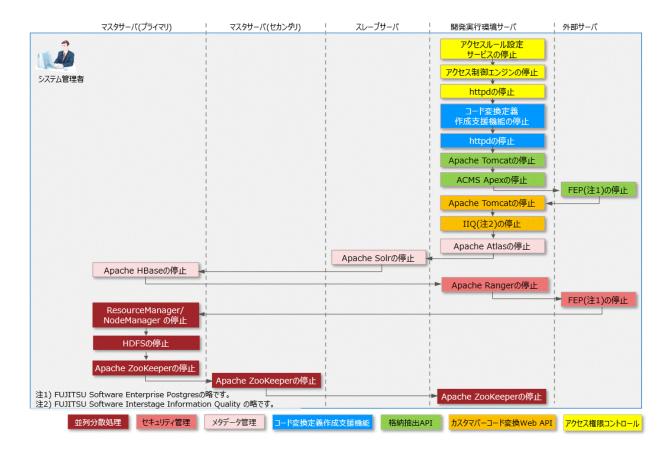


#### 参照

Apache Tomcatの起動方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2 停止する

本機能を導入したシステムを停止する際には、以下の順序で停止した後、各サーバのOSを停止してください。



# 1.2.1 アクセス権限コントロールの停止

アクセス権限コントロールを使用している場合、以下の順序で停止してください

# 1.2.1.1 アクセスルール設定サービスの停止

# 1.2.1.1.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセスルール設定サービスを停止します。

# ps -ef | grep <Launcher(注1)の絶対パス(注2)> | grep -v grep | awk '{print \$2}' <Enter> <PID> # kill <PID> <Enter>

注1) FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncher

注2) インベントリファイルのapi\_launcher\_pathに設定した値を指定

Launcherが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.2.1.1.2 Apache Tomcatを使用している場合

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



Apache Tomcatの停止方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2.1.2 アクセス制御エンジンの停止

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセス制御エンジンを停止します。

# ps -ef | grep /opt/FJSVbsb/bdpp/products/EDI\_COOPERATION/access\_policy/engine/bin/opa | grep -v grep | awk '{print \$2}'
<Enter>
<PID>

# kill <PID> <Enter>

アクセス制御エンジンが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.2.1.3 httpdの停止

開発実行環境サーバで、httpdを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



#### 参照

httpdの停止方法については、Linuxのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2.2 コード変換定義作成支援機能の停止

コード変換定義作成支援機能を使用している場合、以下の順序で停止してください。

# 1.2.2.1 コード変換定義作成支援機能の停止

開発実行環境サーバで、以下を実行してコード変換作成支援機能を停止します。

# kill <PID> <Enter>

# 1.2.2.2 httpdの停止

開発実行環境サーバで、httpdを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



#### 参照

httpdの停止方法については、Linuxのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2.3 格納抽出APIの停止

格納抽出APIを使用している場合、以下の順序で停止してください。

# 1.2.3.1 Apache Tomcatの停止

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



#### 参照

Apache Tomcatの停止方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2.3.2 ACMS Apexの停止

開発実行環境サーバで、ACMS Apexを停止します。



#### 参昭

ACMS Apexの停止方法については、ACMS Apexの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを参照してください。

# 1.2.3.3 FUJITSU Software Enterprise Postgresの停止

外部サーバで、格納抽出APIに利用するデータベース機能を停止します。



#### 参照

データベース機能の停止方法については、"FUJITSU Software Enterprise Postgres 運用ガイド"の"インスタンスの起動と停止"を参照してください。

# 1.2.4 カスタマバーコード変換Web APIの停止

カスタマバーコード変換Web APIを使用している場合、以下の順序で停止してください。

# 1.2.4.1 Apache Tomcatの停止

開発実行環境サーバで、Apache Tomcatを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



#### 参照

Apache Tomcatの停止方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 1.2.4.2 FUJITSU Software Interstage Information Qualityの停止

開発実行環境サーバで、FUJITSU Software Interstage Information Qualityを停止します。すでに停止済の場合は、省略してください。



#### 参照

FUJITSU Software Interstage Information Qualityの停止方法については、FUJITSU Software Interstage Information Qualityの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを参照してください。

•••••

# 1.2.5 メタデータ管理機能の停止

データガバナンスのメタデータ管理機能を使用している場合、並列分散処理を停止する前に、メタデータ管理機能を停止してください。



#### 参照

メタデータ管理機能の停止方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"メタデータ管理機能の停止"を参照してください。

# 1.2.6 セキュリティ管理機能の停止

データガバナンスのセキュリティ管理機能を使用している場合、並列分散処理を停止する前に、セキュリティ管理機能を停止してください。



#### 参照

セキュリティ管理機能の停止方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"セキュリティ管理機能の停止"を参照してください。

# 1.2.7 並列分散処理の停止

並列分散処理を停止してください。



並列分散処理の停止方法については、"分散処理編 ユーザーズガイド"の"並列分散処理の停止"を参照してください。

# 1.3 状態を確認する

EDI連携機能の状態を確認する方法について説明します。

# 1.3.1 コード変換定義作成支援機能の状態確認

コード変換定義作成支援機能の状態確認の手順を以下に示します。

開発実行環境サーバで、以下を実行してコード変換定義作成支援機能の起動状態を確認します。

# ps -ef | grep codemapper\_restapi | grep -v grep | awk '{print \$2}' <Enter>

コード変換定義作成支援機能が起動していない場合、何も表示されません。

# 1.3.2 格納抽出APIの状態確認

格納抽出APIの状態確認の手順を以下に示します。

# 1.3.2.1 Apache Tomcatの状態確認

開発実行環境サーバで、以下を実行してApache Tomcatの状態を確認します。

# ps -ef | grep tomcat | grep <Apache Tomcatのインストールディレクトリ(注)> | grep -v grep | awk ' {if ( \$3 == 1 ) {print \$2}}' <Enter>

注) インベントリファイルのapi\_tomcat\_pathに設定した値を指定

Apache Tomcatが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.3.3 カスタマバーコード変換Web APIの状態確認

カスタマバーコード変換Web APIの状態確認の手順を以下に示します。

# 1.3.3.1 Apache Tomcatの状態確認

開発実行環境サーバで、以下を実行してApache Tomcatの状態を確認します。

# ps -ef | grep tomcat | grep <Apache Tomcatのインストールディレクトリ(注)> | grep -v grep | awk ' {if ( \$3 == 1 ) {print \$2}}' <Enter>

注) インベントリファイルのapi\_tomcat\_pathに設定した値を指定

Apache Tomcatが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.3.4 アクセス権限コントロールの状態確認

アクセス権限コントロールの状態確認の手順を以下に示します。

# 1.3.4.1 アクセス制御エンジンの状態確認

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセス制御エンジンの起動状態を確認します。

# ps -ef | grep /opt/FJSVbsb/bdpp/products/EDI\_COOPERATION/access\_policy/engine/bin/opa | grep -v grep | awk '{print \$2}' <Enter>

アクセス制御エンジンが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.3.4.2 アクセスルール設定サービスの状態確認

アクセスルール設定サービスの状態確認の手順を以下に示します。

# 1.3.4.2.1 FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncherを使用している場合

開発実行環境サーバで、以下を実行してアクセスルール設定サービスの起動状態を確認します。

# ps -ef | grep <Launcher(注1)の絶対パス(注2)> | grep -v grep | awk '{print \$2}' <Enter>

注1) FUJITSU Software Enterprise Application PlatformのLauncher

注2) インベントリファイルのapi\_launcher\_pathに設定した値を指定

Launcherが起動していない場合、何も表示されません。

# 1.3.4.2.2 Apache Tomcatを使用している場合

開発実行環境サーバで、アクセスルール設定サービスの起動状態を確認します。



#### 参照

Apache Tomcatの起動状態を確認する方法については、"1.3.2.1 Apache Tomcatの状態確認"を参照してください。

.....

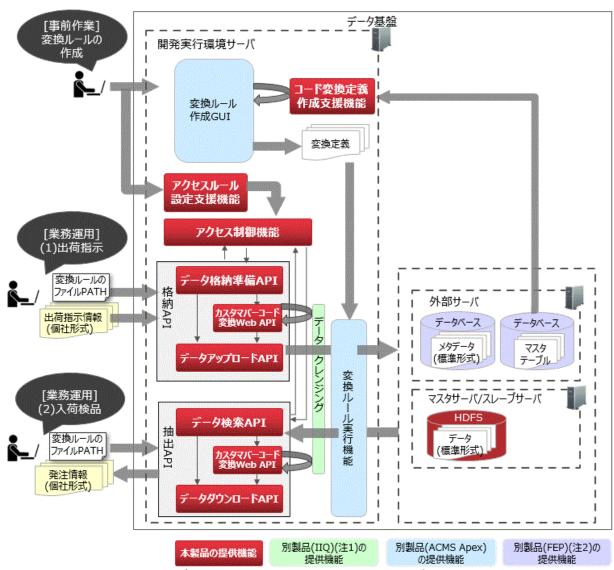
# 第2章 EDI連携機能の利用

本章では、EDI連携機能の利用方法について説明します。

# 2.1 全体概要

「EDI連携機能」は、サービス事業者の物流・商流データ基盤利用を促すために、データ連携の使いやすさを向上させるための機能です。 EDI連携機能を用い、事前にデータ基盤へのデータ格納・抽出用それぞれの変換ルールを作成することで、データ変換に対する開発を 削減することが可能となります。

EDI連携機能の利用例を下記に記載します。



注1) FUJITSU Software Interstage Information Qualityの略です。 注2) FUJITSU Software Enterprise Postgresの略です。

# 2.2 変換ルール作成GUI

変換ルール作成GUIは、変換ルール(個社形式・標準形式間のデータ変換定義)作成工程における、開発効率化を図るためのGUIです。 本機能は『ACMS Apex』により構成されます。

作成した変換ルールは、変換ルール実行機能によって使用されます。

変換ルール作成GUIの特長は以下の通りです。

・ GUI操作により容易に入力/出力のファイルフォーマットを定義することができます。



#### 参照

各種機能、画面やコマンドの詳細な情報はACMS Apexの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを確認してください。



ファイル容量、レコードサイズ、項目名に使用できる文字、変換ルール定義に指定可能な文字コードなどはACMS Apexの仕様に準拠します。

# 2.3 コード変換定義作成支援機能

コード変換定義作成支援機能のGUIは、変換ルール(個社形式・標準形式間のデータ変換定義)作成工程における、開発効率化を図るためのGUIの一部です。

作成したコード変換定義は、変換ルール実行機能によって使用されます。

- コード変換定義作成支援機能GUIの特長は以下の通りです。
- ・ 個社マスタレコードと一致する標準マスタレコードを検索し、手入力で作成していたコード変換ファイルをGUI操作により容易に作成することができます。
- 手入力による作業を減らすことで、作業時間の短縮およびタイプミスによる変換テーブル作成誤りを防げます。

機能種別		概要		
名寄	個社マスタファイルアップロード	ファイル選択画面を表示し、個社マスタファイル(CSV形式)(注)をアップロー		
名寄せ条件	標準マスタ一覧情報取得	標準マスタの一覧を表示		
件入	標準マスタ取得	選択された標準マスタのIDを基に、標準マスタ情報を表示		
力画面	名寄せ実行	指定された個社マスタ項目、標準マスタ項目を名寄せ条件として、名寄せを実 行		
名 寄 せ 表示条件変更		<ul><li>・ 個社マスタおよび標準マスタ項目に対してチェックボックスによる表示項目変更</li></ul>		
結果	表示条件変更	・ NextおよびPrevボタンによる表示範囲変更		
未表示		・ 表示件数 (10/50/100件) 変更による表示件数変更		
果表示画面	コード変換定義ファイルダウン ロード	名寄せ条件入力画面で選択された変換元コードと変換先コードに関する情名寄せ結果から抜き出し、コード変換定義ファイルとしてダウンロード		

注) CSV形式は、「1行目がヘッダ行、2行目からデータ」を満たす必要があります。

# 🚇 ポイント

日時によって利用する標準マスタのレコードを切り替えたい場合、ACMS Apexの定義により実現できます。



#### **参昭**

・ コード変換定義作成支援機能のGUIを利用する場合は、http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:80/にアクセスしてください。利用するポート番号(80)は httpd の設定で変更できます。詳細は httpd のドキュメントを参照してください。

・ 名寄せ条件入力画面、および名寄せ結果表示画面の操作手順については、コード変換定義作成支援機能のGUI上にある「Help」を参照してください。

# 2.4 格納抽出API

格納抽出APIでは、以下のWeb APIを提供します。

機能名	概要		
データ格納準備API	データの格納場所を生成する際に用いるWeb APIです。		
データアップロードAPI	データをアップロードする際に用いるWeb APIです。		
データ検索API	データをメタデータで検索し、検索条件に合致するデータ一覧を取得する際に用いるWeb APIです。		
データダウンロードAPI	格納されたデータを個社形式、または標準形式に変換して取得するWeb APIです。		
検索用パラメータ定義内容取得API	検索用パラメータ名の定義内容を取得する際に用いるWebAPIです。		
検索用パラメータ定義更新API	データ種別識別子ごとの検索用パラメータ名の定義内容を更新するためのWebAPIです。		



EDI連携機能では、標準で認証サービスFJCloud-Oと連携することができます。FJCloud-O以外の認証サービスと連携する場合は、"2.4.7 任意の認証サービスとの連携"を参照してください。

# 2.4.1 データ格納準備API

# 2.4.1.1 概要

データの格納場所を生成する際に用いるWeb APIです。

データ基盤にアップロードするデータに発送元拠点コード・発送先拠点コードなどのメタデータと検索用パラメータを付与し格納先を生成します。

メタデータの有効が確認され、格納場所の生成が正常に終了した際には格納場所と紐づいた有効期限付きの伝票データIDとその有効期限が返却されます。

確保した格納場所は伝票データIDの有効期限内にデータが格納されなかった場合、破棄されます。

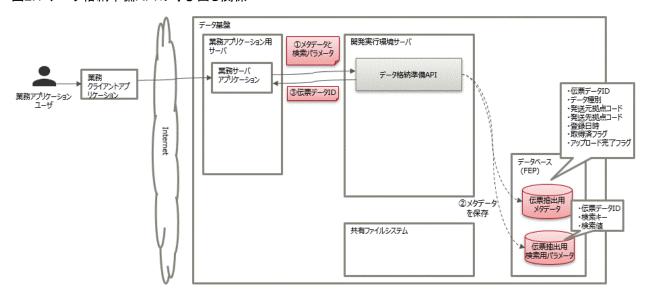
検索用パラメータは、検索キー名と検索値のリストとしてデータ格納準備APIで登録しデータ検索APIのリクエストで指定することで、検索条件に合致する伝票データIDのリストを取得することができます。

データ格納準備APIで指定する検索用パラメータの検索キー名は、事前にシステム管理者が定義したものを使用します。

事前に定義された検索用パラメータは「検索用パラメータ定義内容取得API」を使用して定義内容を参照することができ、「検索用パラメータ名定義更新API」を使用して定義内容を更新することもできます。

システムの上限として、各データ種別識別子に対する検索用パラメータの最大数は20個とします。

# 図2.1 データ格納準備APIの呼び出し関係



作成した伝票データIDが既存のIDと重複していないか確認し、重複していた場合は再度伝票データIDを作成します。重複したIDがないことを確認できるまで繰り返します。

メタデータと検索用パラメータをデータベース(FUJITSU Software Enterprise Postgres)に登録します。

# 2.4.1.2 リクエスト設計

# 2.4.1.2.1 リクエストフォーマット

項目		値		備考
APIエンドポイント (相対URI)		/upload		
HTTPメソッド		POST		
HTTPリクエストヘッ	Content-Type	application	/json	
ダ	Authorization	任意	Bearer {token}	使用する認証サービスのユーザー認証用トークン を指定します
HTTPリクエストボ	data_type	必須	データ種別識別子	任意の値(数字文字列)を指定することができます
ディ				例)
				出荷予定データの場合:10
				出荷確定データの場合:20
	src_location_code	必須	発送元拠点コード	GLN:国際標準の企業、事業所コード
	dst_location_code	必須	発送先拠点コード	
	search_items	任意	検索用パラメータ	配列では下記のオブジェクトを指定します
				• key
				• value
				オブジェクトは最大で20個とします
	key	任意	検索キー	定義された検索キーを指定します
				変換後の値を登録する検索キーの指定はXpathの 検索に則った形式または英数字(文字列)で指定し てください

項目		值		備考
				groupの値を検索値とした場合の例を以下に示します  ・ 属性値で指定されている場合 ¥/test¥/recode¥@group  ・ テキストノードで指定されている場合 ¥/test¥/recode¥/group¥/text¥(¥)
	value	任意	検索値	検索キーをXpathの検索に則った形式を指定する場合指定した値が検索値となります 検索キーを英数字(文字列)で指定した場合、 Valueで指定した値が検索値となります

#### 例)

curl -i -s http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:〈ポート番号(注)〉/upload -H "Content-Type:application/json" -d "{\angle addition\_code\angle ad

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定



#### 参昭

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.4.1.3 レスポンス設計

# 2.4.1.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
Locationヘッダ	Location	リソース作成先URI	正常時、リソース作成場所を表示
HTTPレスポンス	Cache-Control	キャッシュに関する情報	
ヘッダ	Content-Type	application/json;charset=UTF-8	
	Transfer-Encoding	符号化方式	
	Date	日付	
HTTPレスポンス	ticket_id	伝票データID	20桁
ボディ	deadline_date	有効期限日時 (JST)	YYYYmmddHHMMSS形式
			メタデータ格納時点から設定ファイルに記載され た有効時間を追加した時間

## 例)

 $HTTP/1.\,1\ 201$ 

Location: /database/dbtech Cache-Control: no-cache

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Wed, 26 Jan 2022 02:52:47 GMT

{"ticket\_id":"05974539295586651223","deadline\_date":"20210609135403"}

# 2.4.1.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
201	Created	POSTメソッドによりリソースが作成された
400	Bad Request	リクエスト違反(必須項目が空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
405	Method Not Allowed	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
413	Request to large	リクエストボディが大きすぎる
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.1.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
201	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで、作成されたリソースの作成場所をロケーションヘッダで表示
400/500番台	エラーコードと説明文を表示

# 2.4.1.5 エラーメッセージ

# 形式

分類	内容
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)
message	エラーメッセージ本文

## 例)

HTTP/1.1 400

 ${\tt Content-Type: application/json:charset=UTF-8}$ 

Transfer-Encoding: chunked

Date: Tue, 08 Jun 2021 16:20:24 GMT

Connection: close

{"error\_codes":[{"code":"103", "message":"Invalid dst location code."}]}

# エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	001	リクエストボディの形式が誤っている(JSON形式でない)
400	002	データ種別識別子の値が設定されていない
400	003	発送元拠点コードの値が設定されていない
400	004	発送先拠点コードの値が設定されていない
400	101	データ種別識別子の値が不正である
400	102	発送元拠点コードの値が不正である

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	103	発送先拠点コードの値が不正である
400	108	検索キー名が不正である
400	110	検索値が不正である
401	201	認証用トークンによる認証に失敗した
403	202	アクセスが許可されていないユーザーのアクセスによる認可エラー
405	206	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた
500	301	予期せぬエラーが発生した
500	303	予期せぬエラーが発生した
500	その他	予期せぬエラーが発生した
503	303	API側の不具合によるエラー

## 2.4.1.6 キャッシュ

POSTメソッドを用いるため無効

# 2.4.1.7 注意事項

- 発行したticket\_idの有効期限内にデータアップロードAPIを用いてデータをアップロードしなかった場合、本APIで発行したticket\_idは 削除されます。
- ・ リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。

注)これらのパラメーターはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。

- 検索用パラメータの上限を増やしたい場合はシステム管理者への依頼が必要となります。
- ・ 使用可能な文字はRFC 2396に準拠します。

# 2.4.2 データアップロードAPI

## 2.4.2.1 概要

データをアップロードする際に用いるWeb APIです。

本APIを使用するには、データ格納準備APIでticket\_idを発行している必要があります。

変換ルールのファイルPATHとアップロードしたいデータを送信することで、個社形式のデータを標準形式に変換した上で格納することができます。データ変換には変換ルール実行機能が用いられます。

正常に格納が完了した場合は登録日時が返却されます。

クエリパラメーターで指定した変換ルールのファイルPATHが開発実行環境サーバからアクセスできない場合はエラーレスポンスが返却されます。

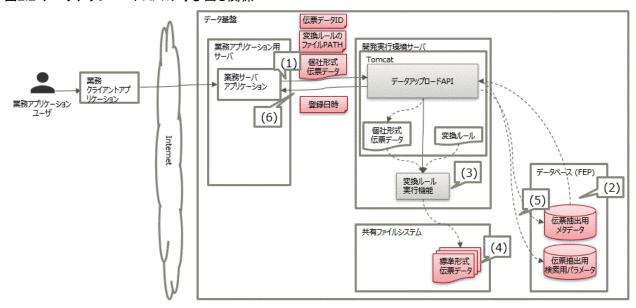
指定したticket\_idがない場合エラーレスポンスが返却されます。

データ変換が異常終了した場合やタイムアウトした場合はエラーレスポンスが返却されます。

ファイルフォーマットにファイルの読み込み対応していないフォーマットが指定された場合は、エラーレスポンスを返却します。

変換後の処理でエラーが発生した場合は、すでに登録されているデータはロールバックし、変換後のファイルを削除します。

## 図2.2 データアップロードAPIの呼び出し関係



- (1) curlコマンドなどでデータをAPIサーバへ送信
- (2) データベース(FUJITSU Software Enterprise Postgres)から、指定された伝票データの存在確認のため、メタデータを取得
- (3) 指定した変換ルールと個社形式の伝票データをAnyTranに送り、データ変換を実施
- (4) 変換したデータを共有ファイルシステムに格納
- (5) アップロードした伝票データIDのアップロード完了フラグを更新
- (6) 登録日時を業務アプリケーションに返信

# 2.4.2.2 リクエスト設計

# 2.4.2.2.1 リクエストフォーマット

項目		値		備考
APIエンドポイント	APIエンドポイント (相対URI)		d/{ticket_id}	
クエリパラメーター	conv_rule_file_path	必須	変換ルールのファイル PATH	設定したファイルPATHは、以下を満たす必要があ ります
				・ 開発実行環境サーバからアクセスできるPATH であること
				・ 絶対PATHであること
				・ 日本語を含まないPATHであること
	file_format	任意	変換後のファイルフォーマッ	変換後ファイルのフォーマットを指定
			F	例)変換後のファイルのフォーマットがxmlの場合、 "xml"を指定
				指定がない場合は"xml"です
	encode	任意	変換後のファイルの文字 コード	指定がない場合は"UTF-8"です
HTTPメソッド		POST		
HTTPリクエスト	Content-Type	applica	ation/octet-stream	
ヘッダ	Authorization	任意	Bearer {token}	使用する認証サービスのユーザー認証用トークン を指定します

項目	値	備考
HTTPリクエストボ ディ	アップロードデータ	ファイルを指定する

#### 例)

curl -i -s http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/upload/<発行されたticket\_id>?conv\_rule\_file\_path=/var/tmp/conv\_rule\_file1 -X POST -H "Content-Type:application/octet-stream" --data-binary @/var/tmp/data.txt

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定



Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

......

# 2.4.2.3 レスポンス設計

# 2.4.2.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時201、異常時は後述
Locationヘッダ	Location	リソース作成先URI	正常終了時、リソース作成場所を表示
HTTPレスポンス	Cache-Control	キャッシュに関する情報	
ヘッダ	Content-Type	application/json;charset=UTF-8	
	Transfer-Encoding	符号化方式	
	Date	日付	
HTTPレスポンス	create_time	登録日時 (JST)	YYYYmmddHHMMSS形式
ボディ	search_items	Xpathの検索に則った形式の場合に、key/Valueの内容が返却されます それ以外の場合は、空(null)となります	配列は下記オブジェクトを要素に持ちます ・ key ・ value
	key	検索キー	
	value	検索値	

## 例)

HTTP/1.1 201 Location: /data

Cache-Control: no-cache

 ${\tt Content-Type: application/json:charset=UTF-8}$ 

Transfer-Encoding: chunked

Date: Thu, 20 Jan 2022 05:25:21 GMT

{"create\_time":"20220120142519", "search\_items":[]}

## 2.4.2.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
201	Created	POSTメソッドによりリソースが作成された

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
400	Bad Request	リクエスト違反(必須項目が空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
405	Method Not Allowed	指定以外のHTTPメソッドを指定された
413	Request to large	リクエストボディが大きすぎる
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.2.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
201	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで、作成されたリソースの作成場所をロケーションヘッダで表示
400/500番台	エラーコードと説明文を表示

# 2.4.2.5 エラーメッセージ

# 形式

分類	内容
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)
message	エラーメッセージ本文

## 例)

HTTP/1.1 400

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Wed, 09 Jun 2021 07:41:16 GMT

Connection: close

 $\{ "error\_codes" \colon [ \{ "code" \colon "112", "message" \colon "Invalid convert rule file path." \} ] \}$ 

# エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	001	リクエストボディの形式が誤っている(JSON形式でない)
400	007	コマンド実行時、ファイルが選択されていない
400	008	本版では未使用
400	009	変換ルールのファイルPATHの値が設定されていない
400	108	本版では未使用
400	111	ファイルフォーマットの値が不正である
400	112	変換ルールのファイルPATHの値が不正である
401	201	認証用トークンによる認証に失敗した

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
403	202	アクセスが許可されていないユーザーのアクセスによる認可エラー
404	203	・ 存在しない伝票データにアクセスした(ticket_idに誤りがあるか、または発行したticket_idの有効期限が切れている)
		<ul> <li>格納抽出API設定ファイル(setting.properties)のticket_data_dirまたはapi_tmp_dirパラメータが</li> <li>不正</li> </ul>
405	206	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた
500	301	予期せぬエラーが発生した
500	302	データ変換に失敗した
503	303	API側の不具合によるエラー

## 2.4.2.6 キャッシュ

POSTメソッドを用いるため無効

# 2.4.2.7 注意事項

- クエリパラメーターとHTTPリクエストボディには異常系において以下のような挙動の違いがあります。
  - 同一パラメーターが複数指定された場合 クエリパラメーター:最初の指定が有効になる リクエストボディ:最後の指定が有効になる
  - 無効なパラメーターが指定された場合クエリパラメーター:無視されるリクエストボディ:エラーになる
- ・ 1度の利用でアップロードできるファイルの個数は1つです。
- 1度の利用でアップロードできるファイルサイズの上限は2MB(注)です。
- ・ リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。 注)これらのパラメーターはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。
- ・ アップロード対象がXMLファイルの場合、以下の点に注意してください。
  - XMLは、version1.0の第4版に準拠する
  - アップロード対象のファイルは、1ファイルに対して1XML文章となる

# 2.4.3 データ検索API

## 2.4.3.1 概要

データをメタデータで検索し、検索条件に合致する伝票データ一覧のID(ticket\_id)リストを取得する際に用いるWeb APIです。 取得されたIDはデータダウンロードAPIで利用されます。

データ種別識別子以外の項目に対して、値の最後に"\*"を付与することでAND検索、"-"を付与することでOR検索を項目間の条件として指定することができます。指定がない場合はAND検索を行います。

項目内の値をカンマ区切りで指定することで複数の条件のOR検索が可能です。

#### 例)

以下のように指定されていた場合、発送元拠点コードが"1234567890123"または"1234567890321"かつ、発送先拠点コードが "1234567890123"のデータを検索します。

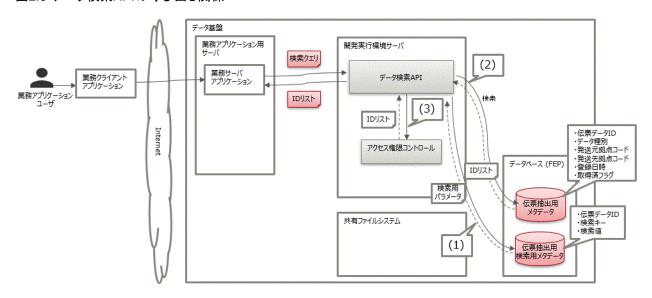
src\_location\_code=1234567890123, 1234567890321\*&dst\_location\_code=1234567890123\*

正常に処理が完了した場合は検索条件に合致した伝票データのIDリストがJSON形式で返却されます。

マスキング機能が有効な場合、実行したユーザーのアクセス権限チェックを行います。返却する伝票データのIDリストに対してマスキングすることが可能です。

検索条件に応じたデータが存在しない場合はその旨が返却されます。

#### 図2.3 データ検索APIの呼び出し関係



- (1) データ種別識別子に応じた検索用パラメータを取得します。
- (2) 伝票抽出用メタデータデータベース(FUJITSU Software Enterprise Postgres)に対してSQLを実行します。

アクセス権限コントロール連携ありの場合、伝票データIDにマスキング処理を行うため、以下(3)を実施します。 (アクセス権限コントロール連携なしの場合、マスキング処理は行われません。)

(3) ユーザー情報からアクセスルールを取得し、取得したアクセスルールを元に伝票データのIDリストをマスキングします。

# 2.4.3.2 リクエスト設計

#### 2.4.3.2.1 リクエストフォーマット

項目		値		備考
APIエンドポイント (	APIエンドポイント (相対URI)			
クエリパラメーター	data_type	必須	データ種別識別子	任意の値(数字文字列)を指定することができます
				例)
				出荷予定データの場合:10
				出荷確定データの場合:20
	get_status	任意	取得フラグ	0: 未取得, 1: 取得済, 2: 未取得・取得済み両方
				注)初期値: 0, データダウンロードAPIで取得され た場合: 1,未指定時: 0
	src_location_code	任意	発送元拠点コード	未指定時は全ヒット
	dst_location_code	任意	発送先拠点コード	未指定時は全ヒット

項目		値		備考
	from_create_datetime	任意	検索範囲の始点日時	YYYYmmddHHMMSS形式
				未指定時は全ヒット
	to_create_datetime	任意	検索範囲の終点日時	YYYYmmddHHMMSS形式
				未指定時は全ヒット
	key名	任意	検索用パラメータ	パラメータ名は定義されている検索用パラメータの 項目名が設定されます
				最大で20個設定可能とします
	separator	任意	検索値の区切り文字	指定がない場合はカンマとします
				エスケープ文字も指定可能です
				例) & → %26
HTTPメソッド		GET		
HTTPリクエスト ヘッダ	Authorization	任意	Bearer {token}	使用する認証サービスのユーザー認証用トークン を指定します

#### 例)

curl -i -s http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/search? data\_type=10~&~get\_status=0~&~src\_location\_code=1234567890321~&~dst\_location\_code=1234567890123~&~from\_create\_datetim e=20210524120130~&~to\_create\_datetime=20210624120130 -X GET

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定

# 🥞 参照

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

## 2.4.3.3 レスポンス設計

# 2.4.3.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポンス	Cache-Control	キャッシュに関する情報	
ヘッダ	Content-Type	application/json;charset=UTF-8	
	Transfer-Encoding	符号化方式	
	Date	日付	
HTTPレスポンス	ticket_id	ticket_id一覧	JSON配列 (要素はstring)
ボディ			データダウンロードAPIで利用

## 例)

HTTP/1.1 200

 ${\tt Cache-Control:}\ \ {\tt no-cache}$ 

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Wed, 26 Jan 2022 02:53:22 GMT

# 2.4.3.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
200	OK	リクエストの処理に成功した
400	Bad Request	リクエスト違反(Content-Typeが空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
405	Method Not Allowed	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
415	Unsupported Media Type	サポートしていないメディアタイプが指定された
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.3.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ			
200	リソース内容を表示			
400/500番台	エラーコードと説明文を表示			

# 2.4.3.5 エラーメッセージ

# 形式

分類	内容	
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)	
message	エラーメッセージ本文	

## 例)

 $HTTP/1.\,1\ 400$ 

 ${\tt Content-Type: application/json:charset=UTF-8}$ 

Transfer-Encoding: chunked

Date: Tue, 08 Jun 2021 17:56:21 GMT

 ${\tt Connection:\ close}$ 

{"error\_codes":[{"code":"103", "message":"Invalid dst location code."}]}

## エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容			
400	001	リクエストボディの形式が誤っている(JSON形式でない)			
400	002	データ種別識別子の値が設定されていない			
400	101	データ種別識別子の値が不正である			
400	102	発送元拠点コードの値が不正である			

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	103	発送先拠点コードの値が不正である
400	105	取得済みフラグの値が不正である
400	106	検索範囲の始点日時の値が不正である
400	107	検索範囲の終点日時の値が不正である
401	201	認証用トークンによる認証に失敗した
403	202	アクセスが許可されていないユーザーのアクセスによる認可エラー
404	203	存在しないデータにアクセスした
405	206	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた
500	301	予期せぬエラーが発生した
503	303	API側の不具合によるエラー

## 2.4.3.6 キャッシュ

キャッシュをさせない。(Pragma, Cache-Controlの2種類で指定)

例) Pragma: no-cache, Cache-Control: no-cache

# 2.4.3.7 注意事項

・ リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。

注)これらのパラメーターはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。

# 2.4.4 データダウンロードAPI

# 2.4.4.1 概要

データ基盤に格納されたデータを個社形式、または標準形式に変換して取得するWeb APIです。

データ検索APIなどで取得した伝票データIDを用いることでダウンロードしたいデータを指定します。

マスキング機能が有効な場合、ユーザー情報を元にアクセス権限コントロールよりアクセスルールを取得し、ダウンロードの可否、ダウンロードデータのマスキング処理を行います。

個社形式データフラグがTrueと指定された場合は、ダウンロード対象ファイルを個社形式データとします。

個社形式データフラグがFalse、または指定なしの場合は、ダウンロード対象ファイルを標準形式データとします。

処理が正常終了した場合は指定した形式のダウンロードデータが返却されます。

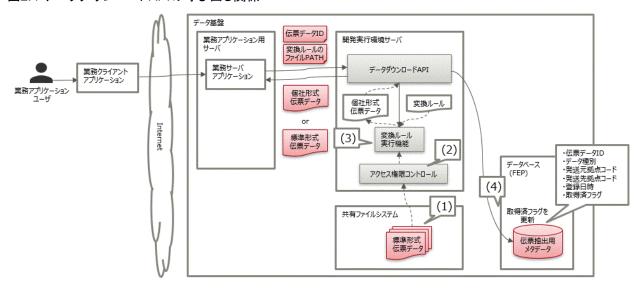
クエリパラメーターで指定した変換ルールのファイルPATHが開発実行環境サーバからアクセスできない場合は、エラーレスポンスが返却されます。

クエリパラメーターの変換ルールのファイルPATHが指定なしの場合は、標準形式の状態でデータが返却されます。

指定した伝票データIDがデータ基盤内に存在しない場合はエラーレスポンスが返却されます。

データ変換が異常終了した場合やタイムアウトした場合はエラーレスポンスが返却されます。

## 図2.4 データダウンロードAPIの呼び出し関係



(1) データダウンロードAPIから呼び出され、共有ファイルシステムから伝票データを取得する。

アクセス権限コントロール連携ありの場合、伝票データにマスキング処理を行うため、以下(2)を実施する。

(アクセス権限コントロール連携なしの場合、マスキング処理は行わない。)

(2) ユーザー情報からアクセスルールを取得し、取得したアクセスルールを元に伝票データをマスキングします。

変換ルールのファイルPATHが指定されている場合、対象ファイルを変換するため、以下(3)を実施する。

(変換ルールのファイルPATHが指定されていない場合、変換処理は呼び出されない。)

- (3) 取得した変換ルールを変換コマンドにより、AnyTranで使えるように変換して使用し、AnyTranでデータ変換する。
- (4) 伝票抽出用メタデータデータベース(FUJITSU Software Enterprise Postgres) に対してSQLを実行し、取得済フラグを更新する。 取得したデータをjson形式で出力

## 2.4.4.2 リクエスト設計

## 2.4.4.2.1 リクエストフォーマット

項目		値		備考
APIエンドポイント (相対URI)		/download/{ticket_id}		ticket_idはデータ検索APIで取得した値
クエリパラメーター	conv_rule_file_path	任意	変換ルールのファイル PATH	指定なしの場合は変換なしで取得 設定したファイルPATHは、以下を満たす必要があります ・ 開発実行環境サーバからアクセスできる PATHであること ・ 絶対PATHであること
				・ 日本語を含まないPATHであること
	each_data_flag	任意	個社形式データフラグ	"True"の場合、格納されている個社形式データを 対象とする
				"False"の場合、格納されている標準形式データ を対象とする
				パラメータ無しだった場合は"False"とする
HTTPメソッド		GET		

項目		値		備考
HTTPリクエストヘッ Authori	zation 任意	Bear	rer {token}	使用する認証サービスのユーザー認証用トーク ンを指定します

#### 例)

curl -i -s

http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/download/01234567890123456789?conv\_rule\_file\_path=/var/tmp/conv\_rule\_file2
-X GET

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定

# 多参

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.4.4.3 レスポンス設計

# 2.4.4.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポンス	Transfer-Encoding	符号化方式	
ヘッダ	Date	日付	
HTTPレスポンス ボディ		ダウンロードデータ	

## 例)

HTTP/1.1 200

 ${\it Transfer-Encoding: chunked}$ 

Date: Wed, 26 Jan 2022 01:58:21 GMT

{ダウンロードデータ}

## 2.4.4.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
200	OK	リクエストの処理に成功した
400	Bad Request	リクエスト違反(Content-Typeが空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
405	Method Not Allowed	指定以外のHTTPメソッドを指定された
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
415	Unsupported Media Type	サポートしていないメディアタイプが指定された
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した

HTTPステータスコード メッセージ		利用場面
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.4.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ		
200	リソース内容を表示		
400/500番台	エラーコードと説明文を表示		

# 2.4.4.5 エラーメッセージ

# 形式

分類	内容	
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)	
message	エラーメッセージ本文	

## 例)

HTTP/1.1 400

 ${\tt Content-Type: application/json:charset=UTF-8}$ 

Transfer-Encoding: chunked

Date: Thu, 10 Jun 2021 01:18:13 GMT

Connection: close

{"error\_codes":[{"code":"009", "message":"Convert rule file path is not set."}]}

# エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容	
400	001	リクエストボディの形式が誤っている	
400	008	本版では未使用	
400	009	変換ルールのファイルPATHの値が設定されていない	
400	108	本版では未使用	
400	112	変換ルールのファイルPATHの値が不正である	
401	201	認証用トークンによる認証に失敗した	
403	202	アクセスが許可されていないユーザーのアクセスによる認可エラー	
404	203	存在しないデータにアクセスした(ticket_idに誤りがあるか、または発行したticket_idの有効期限が切れている)	
405	206	指定以外のHTTPメソッドを指定された	
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした	
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた	
500	301	予期せぬエラーが発生した	
500	302	データ変換に失敗した	
503	303	API側の不具合によるエラー	

# 2.4.4.6 キャッシュ

指定例	説明
Cache-Control: max-age=86400	86400 秒後(24 時間)を有効期限としてキャッシュさせる

## 2.4.4.7 注意事項

- ・ リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。
  - 注)これらのパラメーターはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。
- ・ ダウンロード対象がXMLファイルの場合、以下の点に注意してください。
  - XML宣言のStandaloneの値が常に省略(注)される場合があります。 注)省略時はStandalone=yesと同じ動作となります。
  - 返却データの一部の空白や改行が省略される場合があります。
  - XMLは、version1.0の第4版に準拠します。
  - ダウンロード対象のファイルは、1ファイルに対して1XML文章となります。

# 2.4.5 検索用パラメータ定義内容取得API

# 2.4.5.1 概要

検索用パラメータ名の定義内容を取得する際に用いるWebAPIです。

正常に処理が完了した場合は検索条件に合致した検索用パラメータのリストがJSON形式で返却されます。

データ種別識別子の指定がない場合はすべて検索用パラメータ名を返却します。

データ種別識別子に指定した値が存在しない場合、data\_typeはnull、parameter\_namesは空(0件)を返却します。

## 2.4.5.2 リクエスト設計

## 2.4.5.2.1 リクエストフォーマット

項目		值		備考
APIエンドポイント (相対URI)		/masterget		
クエリパラメーター	data_type	任意	データ種別識別子	任意の値(数字文字列)を指定することができます
				例)
				出荷予定データの場合:10
				出荷確定データの場合:20
HTTPメソッド		GET		
HTTPリクエストヘッ ダ	Content-Type	application/json		

#### 例)

curl -i -s -X GET http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/masterget?data\_type=10 -H "Content-Type:application/json"

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定



Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.4.5.3 レスポンス設計

# 2.4.5.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポンス	Content-Type	application/json;charset=UTF-8	
ヘッダ	Transfer-Encoding	符号化方式	
	Date	日付	
HTTPレスポンス	search_parameters	検索結果一覧	下記オブジェクトを持っています
ボディ			• data_type
			parameter_names
	data_type	データ種別識別子	
	parameter_names	検索用パラメータ名一覧	stringの配列

#### 例)

HTTP/1.1 200

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Thu, 27 Jan 2022 10:20:58 GMT

 $\{ \text{"search\_parameters"} : [ \{ \text{"data\_type"} : \text{"10"}, \text{"parameter\_names"} : [ \text{"xxxxxxxxxxx"}, \text{"xxxxxxxxxxx"} ] \} ] \}$ 

# 2.4.5.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
200	OK	リクエストの処理に成功した
400	Bad Request	リクエスト違反(必須項目が空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
415	Unsupported Media Type	サポートしていないメディアタイプが指定された
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.5.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ	
200	リソース内容を表示	
400/500番台	エラーコードと説明文を表示	

# 2.4.5.5 エラーメッセージ

#### 形式

分類	内容	
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)	
message	エラーメッセージ本文	

#### 例)

HTTP/1.1 503

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Wed, 26 Jan 2022 12:14:11 GMT

Connection: close

{"error\_codes":[{"code":"303", "message":"Service unavailable."}]}

#### エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	001	リクエストボディの形式が誤っている
400	101	データ種別識別子の値が不正である
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた
500	301	予期せぬエラーが発生した場合
503	303	API側の不具合によるエラー

# 2.4.5.6 キャッシュ

キャッシュをさせない。(Pragma, Cache-Controlの2種類で指定)

例) Pragma: no-cache, Cache-Control: no-cache

### 2.4.5.7 注意事項

・ リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。

注)これらのパラメータはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。

# 2.4.6 検索用パラメータ定義更新API

#### 2.4.6.1 概要

データ種別識別子ごとの検索用パラメータ名の定義内容を更新するためのWebAPIです。

本APIはシステム管理者が使用することを想定しています。

指定されたデータ種別識別子の検索用パラメータ名を指定された検索パラメータ名と同じになるように更新します。

既存の検索用パラメータ名が指定されなかった場合は、データテーブルにすでに登録されている検索用パラメータ値も削除されます。 検索用パラメータの定義更新の手順は下記の通りです。

- 1. 現状の検索用パラメータを知らない場合は、検索用パラメータ定義取得APIを実行する。
- 2. 本APIを実行し、定義を更新する。

検索用パラメータの定義を設定ファイルなどに記載していた場合は、ファイルとマスタデータの2か所を更新する必要がありますが、定義内容の取得後に更新とすれば更新手順の漏れが発生しにくくなります。

また、事前に検索用パラメータの定義内容を把握していれば、本APIの実施のみとなり、更新漏れを減らすことができます。

# 2.4.6.2 リクエスト設計

#### 2.4.6.2.1 リクエストフォーマット

項目		値		備考
APIエンドポイント (相対URI)		/masterupdate		
HTTPメソッド		POST		
HTTPリクエスト ヘッダ	Content-Type	application/json		
HTTPリクエストボ	data_type	必須	データ種別識別子	任意の値(数字文字列)を指定することができます
ディ				例)
				出荷予定データの場合:10 出荷確定データの場合:20
	parameter_names	必須	検索用パラメータ名一覧	string西之列
				変換後の値を検索キーとする場合、下記のように 指定してください
				例)変換後のファイルの内容が下記のようなxml形式のファイルの場合、\frac{\frac{1}{2}}{2} (groupと指定
				<test> <recode group=" group1 "></recode> <recode group=" group2 "></recode> </test>

#### 例)

curl -i -s -X POST http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/masterupdate -H "Content-Type:application/json" -d "{\forall}" at a\_type\forall ":\forall ":\foral

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定



#### 参昭

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.4.6.3 レスポンス設計

# 2.4.6.3.1 レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポンス	Location	リソース作成先URI	正常終了時、リソース作成場所を表示
ヘッダ	Content-Type	application/json;charset=UTF-8	
	Transfer-Encoding	符号化方式	

項目		值	備考
	Date	日付	
HTTPレスポンス ボディ	parameter_names	検索用パラメータ名一覧	stringの配列

#### 例)

HTTP/1.1 200

Location: /database/dbtech

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Thu, 27 Jan 2022 10:35:46 GMT

{"parameter\_names":["type3"]}

# 2.4.6.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
200	OK	リクエストの処理に成功した
400	Bad Request	リクエスト違反(必須項目が空など)や他の400番台が適さない
401	Unauthorized	認証されていない、または認証に失敗した
403	Forbidden	認証以外の理由でリソースへアクセスできない
404	Not Found	サーバーがリクエストされたリソースを発見できない
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトした
415	Unsupported Media Type	サポートしていないメディアタイプが指定された
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.4.6.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ	
200	リソース内容を表示	
400/500番台	エラーコードと説明文を表示	

# 2.4.6.5 エラーメッセージ

#### 形式

分類	内容	
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)	
message	エラーメッセージ本文	

#### 例)

 $HTTP/1.\,1\ 503$ 

Content-Type: application/json;charset=UTF-8

Transfer-Encoding: chunked

Date: Thu, 27 Jan 2022 08:08:06 GMT

Connection: close

{"error\_codes":[{"code":"303", "message":"Service unavailable"}]}

#### エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	001	リクエストボディの形式が誤っている
400	002	データ種別識別子の値が設定されていない
400	008	検索用パラメータ名の値が設定されていない
400	101	データ種別識別子の値が不正である
400	108	検索用パラメータ名の値が不正である
		(検索用パラメータ名の上限を超えた場合も含む)
401	201	認証用トークンによる認証に失敗した
403	202	アクセスが許可されていないユーザーのアクセスによる認可エラー
408	204	データへのアクセスがタイムアウトした
413	205	リクエストボディのサイズが上限値を超えた
500	301	予期せぬエラーが発生した場合
503	303	API側の不具合によるエラー

#### 2.4.6.6 キャッシュ

POSTメソッドを用いるため無効

# 2.4.6.7 注意事項

- ・リクエスト送受信時の通信タイムアウトは300秒(注)です。注)これらのパラメータはユーザーによる変更はできません。変更を希望する場合はシステム管理者への依頼が必要となります。
- 複数の検索用パラメータを指定する際に、カンマ区切りで指定するため、検索用パラメータ名にカンマを使用しないでください。

# 2.4.7 任意の認証サービスとの連携

EDI連携機能では、標準で認証サービスFJCloud-Oと連携することができます。

FJCloud-O以外の認証サービスと連携する場合は、連携する認証サービス用に新規クラスを実装してください。

ここではEclipseを用いて開発する手順を説明します。

# 2.4.7.1 事前準備

インストール後に配備されるTicket.warを用いて、新規クラスを実装します。

/opt/FJSVbsb/bdpp/products/EDI\_COOPERATION/api/Ticket.war

#### 2.4.7.1.1 WARのインポート

Ticket.warを用いてWebプロジェクトを作成します。

- 1. メニューバーから[ファイル] > [インポート]を選択します。
- 2. インポート・ウィザードの選択で[Web] > [WARファイル]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 3. WARインポートで[参照]をクリックし、Ticket.warを選択します。
- 4. [完了]をクリックして、Webプロジェクトにデータを取り込みます。

# 2.4.7.1.2 EclipseへのTomcat登録

ビルド時に必要なライブラリーをビルドパスに追加します。

#### ランタイム環境の追加

- 1. メニューバーから[ウィンドウ] > [設定]を選択します。
- 2. [サーバー] > [ランタイム環境] > [追加]を選択します。
- 3. 事前にインストールしたApache Tomcatのバージョンを選択し、[次へ]をクリックします。
- 4. [参照]をクリックし、Apache Tomcatのインストールディレクトリを選択し、[完了]をクリックします。
- 5. [適用して閉じる]をクリックして、設定を反映します。

#### ビルドパスの設定

- 1. プロジェクトを右クリックします。
- 2. [ビルドパス] > [ビルドパスの構成]をクリックします。
- 3. [ライブラリー]タブ > [ライブラリーの追加]をクリックします。
- 4. [サーバー・ランタイム]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 5. 事前にインストールしたApache Tomcatを選択します。
- 6. [適用して閉じる]をクリックして、設定を反映します。

# 2.4.7.2 新規クラスの実装

認証サービスの追加には、下記のファイルの修正と新規作成が必要です。

種別	格納場所	ファイル名	概要
修正	src/main/java/com/fujitsu/	Init.java	checkSettingProperties関数に利用する認証
	bdis/ticket/api		サービス用の処理を追加
修正	src/main/java/com/fujitsu/ bdis/ticket/common	Constants.java	許可サービス名のリストに利用する認証サービ スを追加
修正	bdis/ticket/common	UserInfoFactory.java	新規クラスの呼び出し処理を追記
新規		UserInfoOptionService.java(任意)	追加する認証サービスのユーザー情報、認証認 可エンドポイントのポリシーを扱うクラスを実装

#### Init.java

checkSettingProperties関数に利用する認証サービス用の処理を追加します。

#### 記述例

```
private void checkSettingPropeties() throws PropertyException {
〈省略〉
if (authServiceName. equals("option_service")) {
if (userInfoUrl. isEmpty()) {
throw new PropertyException(String. format(msgFormat, "user_info_url"));
}
}
<省略〉
}
```

#### Constants.java

許可サービス名のリストALLOWED\_SERVICE\_NAME\_LISTに、利用する認証サービス名を追加します。

#### 記述例

```
public static final List<String> ALLOWED_SERVICE_NAME_LIST;
static {
    List<String> list = new ArrayList<String>();
    list.add("noauth");
    list.add("fjcloud-o");

list.add("option_service");
    ALLOWED_SERVICE_NAME_LIST = Collections.unmodifiableList(list);
}
```

### UserInfoFactroy.java

UserInfoFactoryクラスに、新規作成するクラスのインスタンスの作成処理を追加します。

#### 記述例

#### UserInfoOptionService.java

抽象クラスAbstractUserInfoを継承して、追加する認証サービスのユーザー情報、認証認可エンドポイントのポリシーを扱うクラスを実装します。

抽象メソッドgetUserInfoをオーバーライドして、追加する認証サービスからユーザー情報を取得、抽出する処理を記述してください。

#### 関数仕様例

形式	public getUserInfo (HttpServletRequest request) throw AuthenticationException, LogException, UserInfoException			
概要	リクエストからユーザー情報を取得する関数			
パラ	型	名称	説明	
メー ター	HttpServletRequest	request	リクエストパラメーター	
返却値	Map <string,string></string,string>	user_info	リクエストに含まれていたユー ザー情報	
正常処	1. 認証トークンの取得			
理 	格納抽出APIのリクエストヘッダからトークンを取得			
	2. トークンチェック			
	認証トークンがない場合はエラーを発生			
	3. 認証サービスの利用者情報取得APIを実行			
	リクエストメソッド: GET			
	リクエストヘッダー: 認証トークン			
	URL: 格納抽出APIの設定ファイルsetting.propertiesのプロパティuser_info_urlの値			
	4. 下記ユーザー情報が取得できなかった場合はエラーを発生			
	ー ユーザーID			
	- ユーザーの属性			

	5. ユーザー情報を返却	
エラー	エラー名称	発生条件
処理	LogException	ログ書き込み時
	AuthenticationException	トークンチェック時
	UserInfoException	上記以外のエラーの場合

# 2.4.7.3 設定ファイルの変更

格納抽出APIの設定ファイルsetting.propertiesを下記のとおり修正してください。

プロパティ名	説明
auth_service_name	UserInfoFactroy.javaに記述した認証元のサービス名を設定します。
user_info_url	ユーザー情報を取得しにいくURLを設定します。

### 2.4.7.4 WARのエクスポートと配備

新規クラスを追加したWARファイルを作成し、Apache Tomcatへ配備します。

#### 2.4.7.4.1 WARのエクスポート

- 1. メニューバーから[ファイル] > [エクスポート]を選択します。
- 2. エクスポート・ウィザードの選択で[Web] > [WARファイル]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 3. WARエクスポートで[参照]をクリックし、名前を付けて保存で[ファイル名]Ticket、[ファイルの種類].warを設定し、[保存]をクリックします。
- 4. [完了]をクリックして、WARファイルをエクスポートします。

#### 2.4.7.4.2 WARの配備

WARのエクスポートで出力したTicket.warを下記のディレクトリへ配備後、Apache Tomcatを再起動してください。

{Apache Tomcatのインストールディレクトリ}/webapps

# 2.5 変換ルール実行機能

「変換ルール作成GUI」で作成した変換ルールを適用し、『ACMS Apex』の『ANY 変換』機能を利用してデータ変換を実行します。 ACMS Apex内の定義フローを動的生成しANY変換を実行設定することで変換処理を提供します。

本機能はデータアップロードAPIまたはデータダウンロードAPIによって間接的に利用します.



各種機能、画面やコマンドの詳細な情報はACMS Apexの運用ガイドやリファレンスコマンド編などを確認してください。

# 2.6 カスタマバーコード変換Web API

カスタマバーコード変換Web API機能に関するリファレンスを説明します。

# 2.6.1 概要

住所文字列をカスタマバーコード情報に変換するWebAPIです。

業務サーバのアプリケーションから直接利用することが可能です。

正常に処理が完了した場合は、カスタマバーコードを含む住所構造体がJSON形式で返却されます。 クエリパラメーターに指定するオプションによって動作を制御することが可能です。

# 2.6.2 リクエスト設計

# 2.6.2.1 リクエストフォーマット

項目			値	備考
APIエンドポイント (相対URI)		/CBConversion/api/v1/convert		
クエリパラメーター	address	必須	住所文字列	400文字以内 上記を超過する文字列は変換できません その他の仕様については"2.6.7注意事項"を参照
	select	任意	どの値を取得するか レスポンスフォーマットにおけるJSON値のキー名を複数指定することが可能です。また、 "all"を指定することですべての住所情報を取得可能です	カスタマバーコードのみ(customer_barcode)の取得がデフォルト複数指定する場合は、,(カンマ)で区切ります例) select=customer_barcode,postal
	auto_correct	任意	住所自動補正フラグ	住所文字列を自動補正して処理するかどうかを指定します 誤字、脱字などの補正を自動的に行います(1文字誤りまで補正可能) "0":住所の自動補正を行わない(デフォルト) "1":住所の自動補正を行う
HTTPメソッド		GET		

### 例)

curl -i -s http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/CBConversion/api/v1/convert?auto\_correct=1 --get --data-urlencode 'address=港区新橋1-5-2 汐留シティセンター' --data-urlencode 'select=postal,customer\_barcode'

注)インベントリファイルのapi\_tomcat\_portに設定した値を指定

#### 参照

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.6.3 レスポンス設計

# 2.6.3.1 レスポンスフォーマット

	項目	値	備考
HTTPステータス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポンス	Content-Type	application/json	
ヘッダ	Transfer-Encoding	符号化方式	
	Date	日付	

	項目	值	備考
HTTPレスポンス	todoufuken	都道府県の名称	JSON形式の住所情報(要素はstring)
ボディ	gun	郡の名称	
	shichouson	市区町村の名称(「区」は東京都の特別区を示す)	
	seireiku	政令指定都市の区の名称	
	toorina	京都の通り名を示す	
	ooazachou	大字/町相当の地名を示す	
	azachoume	字/丁目相当の地名を示す	
	banchi	番地を示す(M番N号、NNN番地、 NNNなど)	
	others	番地より後ろの文字列(マンション名など)	
	chimei_code	日本加除出版株式会社の「日本行政 区画便覧」の地名コード(半角)	
	postal	郵便番号(半角)	
	todoufuken_kana	都道府県の読み(全角カタカナ)	
	gun_kana	郡の読み(全角カタカナ)	
	shichouson_kana	市区町村の読み(全角カタカナ)	
	seireiku_kana	政令区の読み(全角カタカナ)	
	toorina_kana	通り名の読み(全角カタカナ、全角算 用数字)	
	ooazachou_kana	大字/町の読み(全角カタカナ、全角算用数字)	
	azachoume_kana	字/丁目の読み(全角カタカナ、全角 算用数字)	
	customer_barcode	郵便番号+住所表示番号の部分(半 角英数記号)	

例)

HTTP/1.1 200

 ${\tt Content-Type: application/json:charset=UTF-8}$ 

Transfer-Encoding: chunked

Date: Fri, 07 Jan 2022 02:09:34 GMT

{"postal":"1050004","customer\_barcode":"10500041-5-2"}

# 2.6.3.2 HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	メッセージ	利用場面
200	OK	リクエストの処理に成功した
400	Bad Request	リクエストフォーマットが正しくない、または、
		指定された住所文字列が未サポート
500	Internal Server Error	APIで障害が発生した
503	Service Unavailable	APIが一時的に処理を行うことができない

# 2.6.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
200	リソース内容を表示
400/500番台	エラーコードと説明文を表示

# 2.6.5 エラーメッセージ

#### 形式

分類	内容
code	エラーの詳細な種類(HTTPステータスコードではない)
message	エラーメッセージ本文

#### 例)

```
HTTP/1.1 400 ....

{
"error_codes":[{
"code":"010",
"message":"The value specified for the 'auto_correct (0 or 1)' query parameter is incorrect"
}]
}
```

#### エラーリスト

HTTPステータス コード	エラーコード	内容
400	005	リクエストパラメタとして指定された住所文字列が未サポート
400	007	リクエストパラメタに住所文字列が指定されていない場合
400	008	リクエストパラメタに指定された住所文字列が400文字を超えている場合
400	009	selectクエリパラメーターに指定された値が正しくない場合
400	010	auto_correctクエリパラメーターに指定された値が正しくない場合
500	002	カスタマバーコード変換処理に失敗した場合
500	003	カスタマバーコード変換時にステータスコードの取得に失敗した場合
500	004	カスタマバーコード変換時にステータス原因コードの取得に失敗した場合
500	006	カスタマバーコード変換結果の取得に失敗した場合
503	001	カスタマバーコード変換の開始がタイムアウトした
503	303	API側のエラー

# 2.6.6 キャッシュ

キャッシュなし

# 2.6.7 注意事項

- ・ 文字列解析の対象は、都道府県~番地の範囲です。その他の階層については、解析されません。
- ・ 都道府県、郡、市区町村、政令区のいずれか1つ以上が完全一致している必要があります。

- ・ 400文字を超える文字列は処理できません。
- ・ 住所の表記によっては意図しない結果となる場合があります。意図しない結果となる住所の例については、"意図しない結果となる住所文字列の表記例"を参照してください。
- ・ 郵便番号についての注意事項は以下のとおりです。
  - 事業所などの個別郵便番号には対応していません。
  - 複数の郵便番号が設定された住所については、1つの郵便番号が設定されます。
- カスタマバーコードについての注意事項は以下のとおりです
  - ー カスタマバーコードには、バーコードを印刷する上で必要な半角英数記号文字列が出力されます。また、スタートコード、ストップコード、チェックデジット、および住所表示番号部分が13桁に満たない場合に充足する制御コード(CC4)は含まれません。
  - 大口事業所、私書箱の個別番号などや、料金受取人払の個別番号などのカスタマバーコードには対応していません。文字列を 住所として認識し、郵便番号を求めた上で、カスタマバーコード情報を生成します。
  - 複数の郵便番号が設定された住所では、1つのカスタマバーコードが設定されます。

#### 意図しない結果となる住所文字列の表記例

- 本機能の基準とする住所辞書と表記が大幅に異なる場合 例:大幅な誤りがある、ひらがなやカタカナを混ぜて表記されている、アルファベットでローマ字表記されている、異体字・外字が使われている
- 本機能の基準とする住所辞書に含まれていない住所の場合 例:1970年より前の住所、またはごく最近に変更があった住所
- ・ 本機能の基準とする住所辞書に含まれていない地名表記(小字や通称地名の表記)が含まれている場合
- ・ 本機能の基準とする住所辞書の階層とは合わない箇所に、空白文字が入っている場合
- ・ 字/丁目や番地の階層に当たる部分に数字が含まれず、かつ、建物名などの文字列が後に続いている場合 例:長野県松本市大字今井中沢ハイツ
- 空白文字以外の文字で分かち書きがされている場合 例:神奈川県/川崎市/上小田/4丁目
- ・ 丁目、番地を略記している場合 例:"1丁目"⇒"1"、"1丁目1番1号"⇒"1-1-1"
- ・途中の階層が多く省略された場合 例:都道府県と字/丁目のみしか表記されていない
- ・ 番地の表記形式が以下のような場合
  - 数字として旧字体の漢数字(壱、弐など)が使われている
  - 100以上の数字が位取り付きの漢数字で表現されている(例:三百六十二、二千五百)
  - "A"や"B"などアルファベットが使われている(例:A番B号)
  - 一 "番地"、"番"、"号"、"街区"以外の表現が使われている(例:1部、2区)
  - "3-4"のような略記形式の場合に、数字の間のセパレータとして、以下の文字以外の文字が使われている "の(U+306E)"、"ノ(U+30CE)"、"-(U+FF0D)"、"-(U+2015)"、"-(U+2016)"、"-(U+2010)" (U+2010)"、"-(U+2010)" (U+2010)" (U+2010)

また、以下のような場合には、自動補正できないことがあります。

- ・ 2文字以上誤っている場合
- ・ 補正した結果の候補が2つ以上ある場合 例: "沼津市宮元" ⇒ "沼津市宮本" または "沼津市宮町"

# 2.7 アクセス権限コントロール

アクセス権限コントロールはアクセスルールを作成し、アクセス制御エンジンへ適用することでデータのアクセス権限制御を実現します。

アクセス権限コントロールの特長は以下の通りです。

- ユーザーの属性やカラム単位でアクセスルールを設定できます。
- アクセスルールに基づき、自動でアクセス制御を行うことで設定ミスを防げます。

アクセス権限コントロールでは、以下の機能を提供します。

機能種別	概要
アクセス制御機能	アクセスルールの設定、アクセスルールに基づいたアクセス制御
アクセスルール設定支援機能	アクセスルール設定を補助するテンプレートとAPI

# 2.7.1 アクセス制御機能

アクセス制御機能は、ユーザーや属性を入力としたアクセスルールの設定を可能にします。

設定したアクセスルールに基づき、ユーザーや属性情報に応じてアクセスルールを適用し、表形式のデータに対してカラム単位でのアクセス制御を実施します。

アクセス制御機能の特長は以下の通りです。

- ユーザーや属性(所属企業やメーカーなどの役割)ごとにアクセスルールを設定することができます。
- 表形式データに対するアクセス制御をカラム単位で実施できます。
- データ提供者が作成したアクセスルールを設定します。

# 2.7.2 アクセスルール設定支援機能

アクセスルール設定支援機能では、以下のWeb APIを提供します。

機能名	概要	
ルール登録API	アクセスルールを新規登録する際に用いるWeb APIです。	
ルール更新API	登録済みのアクセスルールを更新する際に用いるWeb APIです。	
ルール取得API	登録済みのアクセスルールを参照する際に用いるWeb APIです。	
ルール削除API	登録済みのアクセスルールを削除する際に用いるWeb APIです。	
ユーザー一覧取得API	特定の情報区分コードに対しアクセスルールを登録しているユーザー名の一覧 取得する際に用いるWeb APIです。	
情報区分コード取得API	特定のユーザーが登録しているアクセスルールの情報区分コード一覧を取得する に用いるWeb APIです。	
アクセスルールを編集する画面	アクセスルールを編集する画面です。	
アクセスルール間の衝突回避機能	本版では、管理者が作成したポリシーとデータ登録者が作成したポリシーで優先 順位を設けており、データ登録者が作成したポリシーを優先しています。	

# 🚇 ポイント

アクセスルールを編集する画面からは、編集したルールをファイル(JSON)に保存することができます。保存したルールファイル(JSON)はAPIを使用して登録することができます。

# 🥞 参照

アクセスルールの書式については、"付録B 定義ファイル"を参照してください。

# 2.7.2.1 ルール登録API

### 2.7.2.1.1 概要

アクセスルールを新規登録する際に用いるWeb APIです。

### 2.7.2.1.2 リクエスト設計

#### リクエストフォーマット

項目		値	備考
APIエンドポイント (相対URI)		/webapi/v1/policymgr/policy	
HTTPメソッド		POST	
HTTPリクエストヘッ ダ	Content-Type	application/json	
HTTPリクエストボ ディ		アクセスルール	アクセスルールのファイルを指定します。文字エン コードはUTF-8です。

#### 例)

curl -i -s -XPOST -H "Content-Type: application/json" -d @data.json http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/webapi/v1/policymgr/policy

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定

#### 参照

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

.....

#### 2.7.2.1.3 レスポンス設計

#### レスポンスフォーマット

	項目	値	備考
HTTPステー タス		int(3桁)	正常時204、異常時は後述
HTTPレスポ ンスヘッダ	Date	日付	
	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	

#### 例)

HTTP/1.1 204

Date: Fri, 07 Jan 2022 09:37:37 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive Connection: Keep-Alive

 $X-BlueCoat-Authorization:\ 85bc5b1f65b6f3c7=304776EA00000003VrFwPeZ0m0iGMvBr/$ 

4 U Y k 2 K R C 1 I s C w A A A w A A A C N v q Q A I B w A A A A A A A C F r a g A A A A A A

#### HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面	
204	アクセスルールの新規登録成功	
400	入力されたアクセスルールの形式が不正	
409	既に同じ情報区分コード、オーナーのアクセスルールが登録されて いる	
500	サーバーサイドで内部エラー発生	

# 2.7.2.1.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ	
204	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示	
400/500番台	エラーメッセージをHTML形式で表示	

# 2.7.2.1.5 キャッシュ

POSTメソッドを用いるため無効

# 2.7.2.1.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.2 ルール更新API

# 2.7.2.2.1 概要

登録済みのアクセスルールを更新する際に用いるWeb APIです。

# 2.7.2.2.2 リクエスト設計

#### リクエストフォーマット

	項目	值	備考
APIエンドポ	イント (相対URI)	/webapi/v1/policymgr/policy	
HTTPメ ソッド		PUT	
HTTPリク エストヘッ ダ	Content-Type	application/json	
HTTPリク エストボ ディ		アクセスルール	アクセスルールのファイルを指定します。 文字エンコードはUTF-8です。

#### 例)

curl -i -s -XPUT -H "Content-Type: application/json" -d @data.json http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号 (注)>/webapi/v1/policymgr/policy

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定



Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

CVICC 0

# 2.7.2.2.3 レスポンス設計

#### レスポンスフォーマット

	項目	値	備考
HTTPステータ ス		int(3桁)	正常時204、異常時は後述
HTTPレスポン スヘッダ	Date	日付	
スヘッダ	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	

例)

HTTP/1.1 204

Date: Fri, 07 Jan 2022 12:16:15 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive Connection: Keep-Alive

X-BlueCoat-Authorization: 387545aa7411cb70=30477AD500000003Uk/6dldpyaY9b9jSBei

+myDVDu43CwAAAwAAADaQqQAIBwAAAAAAKTraQAAAAAA

#### HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面
204	アクセスルールの更新成功
400	入力されたアクセスルールの形式が不正
404	既存のアクセスルールが存在しない
500	サーバーサイドで内部エラー発生

# 2.7.2.2.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ	
204	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示	
400/500番台	エラーメッセージをHTML形式で表示	

# 2.7.2.2.5 キャッシュ

無効

# 2.7.2.2.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.3 ルール取得API

# 2.7.2.3.1 概要

登録済みのアクセスルールを参照する際に用いるWeb APIです。

# 2.7.2.3.2 リクエスト設計

#### リクエストフォーマット

項目			値	備考
APIエンドポイント (	APIエンドポイント (相対URI) /webapi/v1/policymgr/policy			
クエリパラメーター	code	必須	情報区分コード	正の数値であること
	user	必須	オーナー名	UTF-8文字列を%エンコードしたもの
HTTPメソッド		GET		

#### 例)

curl -i -s -XGET "http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/webapi/v1/policymgr/policy?user=Asahi&code=3012"

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定



#### 参照

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

#### 2.7.2.3.3 レスポンス設計

#### レスポンスフォーマット

項目		値	備考
HTTPステータ ス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポン	Content-Type	application/json	
スヘッダ	Content-Length	int	
	Date	目付	
	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	
HTTPレスポン スボディ		アクセスルール一覧	アクセスルールのJSON文字列。文字エンコード はUTF-8

#### 例)

HTTP/1.1 200

Content-Type: application/json

Content-Length: 755

Date: Fri, 07 Jan 2022 11:11:49 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive Connection: Keep-Alive

{"meta\_info": {"policy": {"master": false, "producer": "Asahi"}, "resource": {"code": "3012", "message\_name": "運送計画情報 ", "target\_notation": "xpath"}, "version": "1.0"}, "permission": {"categories": [{"crud": {"create": [], "delete": [], "read": ["/ 運送計画情報 / ッセージ情報/@データ処理NO."], "update": []}, "name": "食品卸"}, {"crud": {"create": [], "delete": [], "read": ["/ 運送計画情報/メッセージ情報/@情報区分コード"], "update": []}, "name": "配送業者"}], "crud": {"create": [], "delete": [], "read": [], "update": []}, "users": [{"crud": {"create": [], "read": [], "read": [], "read": []}, "name": "Itochu"}]}}

#### HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面
200	アクセスルールの取得成功
400	入力されたパラメータの形式が不正
404	指定されたアクセスルールが存在しない
500	サーバーサイドで内部エラー発生

# 2.7.2.3.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
200	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示
400/500番台	エラーメッセージをHTML形式で表示

#### 2.7.2.3.5 キャッシュ

無効

### 2.7.2.3.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.4 ルール削除API

# 2.7.2.4.1 概要

登録済みのアクセスルールを削除する際に用いるWeb APIです。

アクセスルールの削除をアクセス制御エンジンに反映させるためには、アクセス制御エンジンの再起動が必要です。アクセス制御エンジンの起動が必要です。アクセス制御エンジンの起動"を参照してください。

# 2.7.2.4.2 リクエスト設計

# リクエストフォーマット

	項目	值		備考
APIエンド	ポイント (相対URI)	/webapi/v1/policymgr/policy		
クエリパ	code	必須	情報区分コード	正の数値であること
ラメーター	user	必須	オーナー名	UTF-8文字列を%エンコードしたもの
HTTPメ ソッド		DELETE		

#### 例)

curl -i -s -XDELETE

"http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/webapi/v1/policymgr/policy?user=Asahi&code=3012"

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定



Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

CAUCGA .0

# 2.7.2.4.3 レスポンス設計

#### レスポンスフォーマット

	項目	値	備考
HTTPステータ ス		int(3桁)	正常時204、異常時は後述
HTTPレスポン スヘッダ	Date	日付	
スヘッダ	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	

#### 例)

HTTP/1.1 204

Date: Fri, 07 Jan 2022 10:09:55 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive Connection: Keep-Alive X-BlueCoat-Authorization:

ca5a4f8a2087af4f=30744BB60000003GVmy7Xk1IBix6BDkOABXSpgcNmooCAAAAwAAAEZuqQAIBwAAAAAAABEYRAAAAAAA

#### HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面
204	アクセスルールの削除成功
400	入力されたパラメータの形式が不正
404	指定されたアクセスルールが存在しない
500	サーバーサイドで内部エラー発生

# 2.7.2.4.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
204	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示
400/500番台 エラーメッセージをHTML形式で表示	

# 2.7.2.4.5 キャッシュ

無効

# 2.7.2.4.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.5 ユーザー- 覧取得API

#### 2.7.2.5.1 概要

特定の情報区分コードに対しアクセスルールを登録しているユーザー名の一覧を取得する際に用いるWeb APIです。

# 2.7.2.5.2 リクエスト設計

#### リクエストフォーマット

I	頁目		値	備考
APIエンドポイント	· (相対URI)	/webapi/v1/policymgr/policy/users		
クエリパラメー ター	code	必須	情報区分コード	正の数値であること
HTTPメソッド		GET		

#### 例)

curl -i -s -XGET

"http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/webapi/v1/policymgr/policy/users?code=3012"

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定



Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

......

#### 2.7.2.5.3 レスポンス設計

# レスポンスフォーマット

	項目	值	備考
HTTPステータ ス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポン	Content-Type	application/json	
スヘッダ	Content-Length	int	
	Date	日付	
	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	
HTTPレスポン スボディ		ユーザー名一覧	指定された情報区分コードのアクセスルールを 登録しているユーザー名のJSON配列

#### 例)

HTTP/1.1 200

 ${\tt Content-Type: application/json}$ 

Content-Length: 9

Date: Fri, 07 Jan 2022 11:41:41 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive Connection: Keep-Alive

X-BlueCoat-Authorization: 387545aa7411cb70=30477AD500000037uof +Q7qf1jxReBnE1NVEQzi6802CwAAAwAAAByIqQAIBwAAAAAAKTraQAAAAAA

["Asahi"]

#### HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面
200	ユーザー名の一覧取得成功
400	入力されたパラメータの形式が不正
404	指定されたアクセスルールが存在しない
500	サーバーサイドで内部エラー発生

# 2.7.2.5.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
200	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示
400/500番台	エラーメッセージをHTML形式で表示

#### 2.7.2.5.5 キャッシュ

無効

# 2.7.2.5.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.6 情報区分コード取得API

# 2.7.2.6.1 概要

特定のユーザーが登録しているアクセスルールの情報区分コード一覧を取得する際に用いるWeb APIです。

#### 2.7.2.6.2 リクエスト設計

# リクエストフォーマット

Į	頁目	値		備考
APIエンドオ URI)	ペイント (相対	/webapi/v1/policymgr/policy/codes		
クエリパラ メーター	user	必須	オーナー名	UTF-8文字列を%エンコードしたもの
HTTPメ ソッド		GET		

#### 例)

curl -i -s -XGET

http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<ポート番号(注)>/webapi/v1/policymgr/policy/codes?user=Asahi

注) インベントリファイルのaccess\_policy\_mngr\_portに設定した値を指定

# 多

Apahe Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)は、Apache Tomcatの設定により異なります。

Apache Tomcatに配備されたAPIエンドポイント(相対URI)の確認方法については、Apache Tomcatのオンラインマニュアルなどを参照してください。

# 2.7.2.6.3 レスポンス設計

# レスポンスフォーマット

	項目	値	備考
HTTPステータ ス		int(3桁)	正常時200、異常時は後述
HTTPレスポン	Content-Type	application/json	
スヘッダ	Content-Length	int	
	Date	日付	
	Proxy-Connection	Keep-Alive	
	Connection	Keep-Alive	
	X-BlueCoat-Authorization	文字列	
HTTPレスポン スボディ		情報区分コード一覧	指定されたユーザーが登録しているアクセス ルールの情報区分コード(数値)のJSON配列

### 例)

HTTP/1.1 200

Content-Type: application/json

Content-Length: 8

Date: Fri, 07 Jan 2022 11:58:20 GMT Proxy-Connection: Keep-Alive

Connection: Keep-Alive

X-BlueCoat-Authorization: ca5a4f8a2087af4f=30744BB60000003UqTBFlT1KpMs2ZPgIcW6wSbc9A8qCAAAAwAAAK

+HqQAIBwAAAAAAALQfRAAAAAA

["3012"]

# HTTPステータスコード

HTTPステータスコード	利用場面
200	情報区分コードの一覧取得成功
400	入力されたパラメータの形式が不正
404	指定されたアクセスルールが存在しない
500	サーバーサイドで内部エラー発生

# 2.7.2.6.4 メッセージボディ

HTTPステータスコード	メッセージボディ
200	リクエストが成功してリソースの作成が完了したことをHTTPステータスで表示
400/500番台	エラーメッセージをHTML形式で表示

# 2.7.2.6.5 キャッシュ

無効

#### 2.7.2.6.6 注意事項

ありません。

# 2.7.2.7 アクセスルールを編集する画面

アクセスルールを編集する画面は、運用者がアクセスルールの編集を簡単に行うための機能です。 本機能は『JSON Editor』により構成されます。

# 爲 参照

- ・ アクセスルールを編集する画面(JSON Editor)を利用する場合は、http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:80/jsoneditor/にアクセスしてください。利用するポート番号(80)はhttpdの設定で変更できます。詳細は、httpd のドキュメントを参照してください。
- ・ JSON Editorの詳細な情報は、OSSのオンラインドキュメントを参照してください。

# 第3章 トラブルシューティング

本章では、本機能でトラブルが発生した際の調査方法について説明します。

# 3.1 ログ

本機能を使用しているシステムで問題が発生した場合、FJQSS(資料採取ツール)で必要なログを採取してください。

FJQSSの出力先ディレクトリ(未指定の場合は/tmp)に、十分な空きがあることを事前に確認してください。必要な空き容量の目安は5MB以上です。業務内容や運用形態により必要な空き容量は増加します。

ログの種類は以下のとおりです。

- アプリケーションログ サーバサイドの動作の状況を記録します。
- 通信ログHTTPリクエスト、HTTPレスポンスの内容を記録します。

# 3.1.1 アプリケーションログ

アプリケーションログはデータ変換の成功の有無、認証失敗時やカスタマバーコード変換の成功の有無などエラー情報、例外発生を記録します。

ログの書き込み権限および読み込み権限はrootユーザーのみが持ちます。

#### ログレベル

ログレベル	ログ記載時	例	
SEVERE	エラー発生時	例外が発生した場合	
WARNING	エラーレスポンスを設定するとき	データフォーマットが異なっていた場合	
INFO	処理開始	メタデータを保存	
FINE	処理の詳細	シェルの成功、失敗	

#### フォーマット

格納抽出API、およびカスタマバーコード変換Web APIのフォーマットは、以下のとおりです。

ファイル名のフォーマット

app\_log.log

・ ログの記載内容のフォーマット

YYYYmmddHHMMSS.SSS ログレベル メッセージ

エラー発生時はStacTraceも記載する

アクセス権限コントロールのフォーマットは、以下のとおりです。

- ファイル名のフォーマット
  - $policy manager\_\%u\_\%g.log$
- ログの記載内容のフォーマット

ログレコードのイベント時間 呼び出し元文字列

ログレベル: メッセージ

エラー発生時はStacTraceも記載する

# 3.1.2 通信ログ

通信ログはHTTPリクエストで受信した入力データや、HTTPレスポンスで送信するデータを記録します。また、レスポンス時間のタイムアウトやHTTPリクエストボディの容量オーバーなどのHTTPエラーも記録します。

伝票データIDや変換ルールのファイルPATHが記録される場合があるため、書き込み権限および読み込み権限はrootユーザーのみとします。

#### ログレベル

ログレベル	ログ記載時	例
SEVERE	HTTPエラー発生時	タイムアウトが発生した場合
WARNING	エラーレスポンスを返す時	存在しない伝票データIDが指定された 場合
INFO	正常レスポンスを返す時	問題なく処理が完了し、レスポンスを返 す場合
	HTTPリクエストを受信した時	,

#### フォーマット

格納抽出API、およびカスタマバーコード変換Web APIのフォーマットは、以下のとおりです。

ファイル名のフォーマット

web\_log.log

ログの記載内容のフォーマット

発生日時 ログレベル メッセージ

YYYYmmddHHMMSS.SSS ログレベル レスポンスボディorリクエストボディ+クエリパラメータ

ただし、下記の場合はリクエストボディ、レスポンスボディはサイズをログに記載します

- ー アップロードAPIのリクエストボディ
- ー ダウンロードAPIのレスポンスボディ

アクセス権限コントロールのフォーマットは、以下のとおりです。

ファイル名のフォーマット

access.log

ログの記載内容のフォーマット

アクセス元ホスト名 - 認証ユーザー名 [受付日時] "メッセージ"

アクセス元ホスト名 - 認証ユーザー名 [dd/mm/YYYY:HH:MM:SS] "リクエストの最初の行の値" 最後のレスポンスステータス 送信されたバイト数 "リファラー" "User Agent"

# 3.1.3 ログローテーション

カスタマバーコード変換Web API機能に関するログローテーションは、下記で設定します。

- 設定ファイル名 cb\_logging.properties
- 設定ファイルの場所 /etc/opt/FJSVbsb/bdpp/api/conf/

項目	内容	設定値
java.util.logging.FileHandler.level	出力ログレベル	FINE, INFO, WARNING, SEVERE
		(省略時:WARNING)

項目	内容	設定値
java.util.logging.FileHandler.limit	ログの最大サイズ	最小值:0、最大值:INT_MAX
		(省略時:0)
		0を設定した場合は無制限に、最小値より小さい値を設定した場合は0に、最大値より大きい値を設定した場合は最大値に設定されます。
java.util.logging.FileHandler.count	ローテーションに使用するファイル数	最小値:1、最大値:100
		(省略時:1)
		最小値より小さい値を設定した場合は1に、 最大値より大きい値を設定した場合は100に 設定されます。

アクセス権限コントロールのログローテーションは、下記で設定します。

- 設定ファイル名 logging.properties
- ・ 設定ファイルの場所 /etc/opt/FJSVbsb/bdpp/access\_policy/settings/manager/logging.properties

項目	内容	設定値
java.util.logging.FileHandler.level	出力ログレベル	INFO(省略時:INFO)
java.util.logging.FileHandler.limit	ログの最大サイズ	最小値:0、最大値:INT_MAX
		(省略時:2097152(byte))
		0を設定した場合は無制限に、最小値より小さい値を設定した場合は0に、最大値より大きい値を設定した場合は最大値に設定されます。
java.util.logging.FileHandler.count	ローテーションに使用するファイル数	最小值:1、最大值:100
		(省略時:100)
		最小値より小さい値を設定した場合は1に、 最大値より大きい値を設定した場合は100に 設定されます。

上記以外の格納抽出APIのアプリケーションログ、および通信ログのログローテーションは、OSのログローテーションの仕組みを利用して管理してください。

以下のファイルで設定します。

・ "/etc/logrotate.d/tomcatX" XにはTomcatのバージョンが入ります。

ログの保存期間は14日間とします。

# 付録A 設定パラメーター

本機能で提供する EDI連携機能に関する設定パラメーターについて説明します。

# 表A.1 設定ファイル一覧

設定ファイル	説明	配置ディレクトリ
conv.properties (注)	変換ルールに関する設定ファイルです。	/etc/opt/FJSVbsb/bdpp/api/conf
setting.properties (注)	格納抽出APIに関する設定ファイルです。	/etc/opt/FJSVbsb/bdpp/api/conf
cb_setting.properties (注)	カスタマバーコード変換Web APIに関する設定ファイルです。	/etc/opt/FJSVbsb/bdpp/api/conf
microprofile- config.properties(注)	アクセス権限コントロールに関する設定ファイルです。	/etc/opt/FJSVbsb/bdpp/access_policy/ settings/manager

注) 開発実行環境サーバのみに配置されます。

# A.1 conv.properties

conv.properties ファイルに設定する環境変数について説明します。

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
conv_any_user	ACMS Apexのオペレーター IDを指定します。	任意	<b>【設定値】</b> <オペレーターID>	_
conv_any_password	ACMS Apexのパスワードを 指定します。	任意	【 <b>設定値</b> 】 <パスワード>	_
flowid	ACMS Apexに登録するフロー名を指定します。	変更不可	【設定値】 bdis-flow	_
conv_error_path	格納抽出APIのエラーログ ファイルを出力するディレクト リパスです。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/api/any/ error	_
conv_log_path	格納抽出APIのログファイル を出力するディレクトリパスで す。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/log/api/any	_
conv_error_data_path	格納抽出APIの実行時に変換に失敗したデータを出力するディレクトリパスです。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/api/any/ error_data	_
conv_check_interval	データ変換のチェックイン ターバル時間です。(単位は 秒)	任意	【初期値】	_
conv_check_count	データ変換のチェック回数で す。	任意	【初期値】 3	_

# A.2 setting.properties

setting.propertiesファイルで設定するプロパティについて説明します。

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
meta_data_deadline	製品として固定値のため設定不要です。	変更不可	【設定値】 15	_
ticket_data_dir	ファイルストアのディレクトリパ スです。 ticket_datalake_dirが設定さ れている場合、設定したディ レクトリパスを一時ディレクトリ として利用します。	任意	【設定値】 <インベントリファイルの api_ticket_data_dirで設定した値>	
ticket_datalake_dir	分散ファイルシステム、または オブジェクトストレージのURL を設定します。 設定値にはスペースを含まな いでください。	任意	【設定値】 _	_
ticket_data_deadline	製品として固定値のため設 定不要です。	変更不可	【設定値】 30	_
meta_check_interval	製品として固定値のため設定不要です。	変更不可	【 <b>設定値</b> 】 1	_
ticket_check_interval	製品として固定値のため設定不要です。	変更不可	【 <b>設定値</b> 】 1	_
command_timeout	格納抽出APIのリクエスト送 受信時の通信タイムアウトで す。(単位は秒)	任意	【 <b>設定値</b> 】 300	_
log_dir	格納抽出APIのログファイル 出力先ディレクトリパスです。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/log/api/ ticket	_
api_tmp_dir	格納抽出APIで使用する一 時ファイル格納用のディレクト リパスです。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/api/tmp	_
datalake_upload_cmd	分散ファイルシステム、または オブジェクトストレージのアッ プロードコマンドを設定します。 入力元データは BDIS_INPUT_FILE、出力 先はBDIS_OUTPUT_DIRと 固定で設定してください。	任意	【設定値】 - 【記入例】 datalake_upload_cmd= "sudo -i -u bdppuser1 hadoop fs -put -f BDIS_INPUT_FILE BDIS_OUTPUT_DIR"	_
datalake_download_cm d	分散ファイルシステム、または オブジェクトストレージのダウ ンロードコマンドを設定します。 入力元データは BDIS_INPUT_FILE、出力 先はBDIS_OUTPUT_DIRと 固定で設定してください。 ダブルクォーテーションで囲 まないようにしてください。 分散ファイルシステム、または オブジェクトストレージのダウ	任意	【設定値】 - 【記入例】 datalake_download_cmd= sudo -i - u bdppuser1 hadoop fs -get -f BDIS_INPUT_FILE BDIS_OUTPUT_DIR	

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
	ンロードコマンドを実行する ユーザーは、 BDPP_HADOOP_DEFAU LT_GROUPに設定したグ ループに所属する必要があり ます。			
save_raw_data	変換元データを格納する機 能を有効にします。	任意	【設定値】 ON	ON/OFF
convert_file_format	変換後ファイルのファイル フォーマット形式を設定しま す。	変更不可	【設定値】 xml	_
convert_encode	変換後ファイルの文字コード を設定します。	変更不可	【設定値】 UTF-8	-
auth_service_name	格納抽出APIで利用する ユーザー情報の取得方法を 設定します。標準で設定可 能な値は以下です。  fjcloud-o  noauth(アクセス権限コントロール連携なし) データ格納準備APIを使用し	任意	【 <b>設定値</b> 】 <インベントリファイルの auth_service_nameで設定した値>	
user_info_url	た後は変更できません。 auth_service_nameが fjcloud-oの場合に、格納抽 出APIで利用するユーザー 情報を取得しに行くURLを 指定します。 hostname、業界識別子は環 境に合わせて置換します。	任意	【 <b>設定値】</b> <インベントリファイルの user_info_urlで設定した値>	_

# A.3 cb\_setting.properties

cb\_setting.propertiesファイルに設定する環境変数について説明します。

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
max_worker_threads	カスタマバーコード変換を同時に処理できる最大スレッド数を指定します。 本値に指定した数値を超える多重度のリクエストを受けた場合は、待ち合わせ時間が発生します。	任意	【 <mark>設定値】</mark> <実装CPUのコア数>	1~8
blocking_timeout	リクエストがカスタマバーコード変換処理を開始するまでの 最大待ち合わせ時間を指定 します。(単位はミリ秒)	任意	【設定値】 1000ms	0~2,147,483,647

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
	Omsの場合、即座に変換処 理が開始できなかったときは エラーを返します。			
log_dir	カスタマバーコード変換Web APIのログ出力ディレクトリを 指定します。	変更不可	【設定値】 /var/opt/FJSVbsb/bdpp/log/api/ cbconversion	_

# A.4 microprofile-config.properties

microprofile-config.properties ファイルに設定する環境変数について説明します。

プロパティ名	説明	変更不可/ 任意	初期値/設定値	設定値の範囲
opaUrl	アクセス制御エンジンのURL を設定	変更不可	【設定値】 http://<開発実行環境サーバのIPアドレス>:<アクセス制御エンジンサーバのポート番号>/v1/data/fujitsu/sip/txdata	_
storageType	製品として固定値のため設 定不要	変更不可	【設定値】 dav	_
storageUrl	WebDAVサーバのURLを設定	変更不可	【設定値】 http://<開発実行環境サーバのIPア ドレス>: <webdavサーバのポート 番号&gt;/policy</webdavサーバのポート 	_
storageAuthType	WebDAVサーバの認証 (製品として固定値のため設 定不要)	変更不可	【設定值】 basic	_
storageUser	WebDAVサーバへのアクセス用ユーザーカウント (製品として固定値のため設定不要)	変更不可	【設定値】 bsb_webdav	1
storagePass	WebDAVサーバへのアクセス用パスワード (製品として固定値のため設定不要)	変更不可	【設定値】 bsb_webdav	_
logName	ロガー名 (製品として固定値のため設 定不要)	変更不可	【設定值】 com.fujitsu.sip.mod1	_
logProperty	ログ設定ファイルのパス (製品として固定値のため設 定不要)	変更不可	【設定値】 /etc/opt/FJSVbsb/bdpp/ access_policy/settings/manager/ logging.properties	_

# 付録B 定義ファイル

アクセス権限コントロールで使用するファイルについて説明します。

# B.1 アクセスルール

アクセスルールの詳細について説明します。

# B.1.1 記述形式

アクセスルールはアクセス権定義が記述されたJSON形式のデータです。

アクセスルールのファイル名は"data.json"としてください。

#### 書式

```
      (**)
      "キー名": 指定値,

      (**)
      "キー名": 指定値

      (**)
      "キー名":指定値

      (**)
      "キー名":指定値
```

# B.1.2 データ構造の定義

アクセスルールのデータ構造を説明します。

# B.1.2.1 meta\_info

アクセスルールのメタ情報を設定する場合に使用します。

+	<b>キ</b> 一名		必須/選 択	指定値	説明		
policy	master	bool	必須	true/false	管理者がポリシーを設定する場合はtrue、データ登録者がポリシーを設定する場合はfalseを指定してください。		
	producer	文字列	選択	ポリシー作 成者名	masterがtrueの場合、本項目は不要です。固定値.(ドット)が設定されます。		
				masterがfalseの場合は、producerにポリシー作成者名を設定します。			
					アクセス対象のデータ登録者が本項目のポリシー作成者名に一致する 場合に、このポリシーが適用されます。		
resource	code	文字列	必須	任意	適用対象のデータの情報区分コード。		
	message_na me	文字列	必須	任意	適用対象のデータのメッセージ名称。		
	target_notati on	文字列	固定	xpath	製品として固定値のため設定不要。		
version		文字列	固定	1.0	製品として固定値のため設定不要。		

# B.1.2.2 permission

カラムごとのアクセス権を設定する場合に使用します。

#### crud

デフォルトのアクセス権限を設定する配列です。

+-	<b>キ</b> 一名		必須/選 択	指定値	説明
crud read		[<対象オブ ジェクト>]	必須	任意	read権限を許可するオブジェクト名の配列。
					オブジェクト名にはXpath形式で属性を指定します。
	update	[<対象オブ ジェクト>]	固定		製品として固定値のため設定不要。
	create	[<対象オブ ジェクト>]	固定		製品として固定値のため設定不要。
	delete	[<対象オブ ジェクト>]	固定	[]	製品として固定値のため設定不要。

#### users

ユーザーごとのアクセス権限を設定する配列です。ユーザーごとの権限設定を含まないポリシーの場合は、このキーは含まれません。

	キー名		データ型	必須/選 択	指定値	説明
users	name		<ユーザー 名>	必須	ユーザー 名文字列	対象のユーザーを示します。
						例) 富士通株式会社
	crudread[<対象オブ		任意	read権限を許可するオブジェクト名の配列。		
		update	[<対象オブ ジェクト>]	固定	0	製品として固定値のため設定不要。
		create	[<対象オブ ジェクト>]	固定	0	製品として固定値のため設定不要。
		delete	[<対象オブ ジェクト>]	固定	0	製品として固定値のため設定不要。

# categories

属性(ユーザーの職種、業界、業態)ごとのアクセス権限を設定する配列です。属性ごとの権限設定を含まないポリシーの場合は、この キーは含まれません。

	キー名		データ型	必須/選 択	指定値	説明
catego				対象の属性(ユーザーの職種、業界、業態)を示します。		
ries					文字列	例) 飲料メーカー
	crud	read	[<対象オブ ジェクト>]	必須	任意	read権限を許可するオブジェクト名の配列。
		update	[<対象オブ ジェクト>]	固定		製品として固定値のため設定不要。
		create	[<対象オブ ジェクト>]	固定		製品として固定値のため設定不要。
		delete	[<対象オブ ジェクト>]	固定		製品として固定値のため設定不要。

# <u>B.1.3</u> サンプル

サンプルファイルの内容は以下のとおりです。

```
"meta_info": {
   "policy": {
       "master": false,
"producer": "CorporationA"
   "target_notation": "xpath",
       "message_name": "運送計画情報"
   "version": "1.0"
"permission": {
   "crud": {
       "create": [],
       "read": [],
       "update": [],
       "delete": []
   "categories": [
           "name": "食品卸",
           "crud": {
              "create": [],
              "read": [
                  "/運送計画情報/メッセージ情報/@データ処理NO."
              "update": [],
              "delete": []
          }
       },
           "name": "配送業者",
           "crud": {
              "create": [],
              "read": [
                  "/運送計画情報/メッセージ情報/@情報区分コード"
              "update": [],
              "delete": []
      }
   ],
   "users": [
           "name": "CorporationA",
           "crud": {
              "create": [],
              "read": [
"*"
              "update": [],
              "delete": []
          }
       },
           "name": "CorporationB",
           "crud": {
              "create": [],
              "read": [
                  "/運送計画情報/メッセージ情報/@データ処理NO."
```

# 付録C ポート一覧

本機能で使用するポート一覧を説明します。

# C.1 コード変換定義作成支援機能で使用するポート一覧

コード変換定義作成支援機能において使用するポートです。

LAN		送信元			プロト		
種別	サーバ	サービス	ポート	サーバ	サービス	ポート	コル
業務	クライアントPC	http	不定	開発実行環境サーバ	http	80	tcp
LAN	クライアントPC	http	不定	開発実行環境サーバ	python	任意	tcp

# C.2 格納抽出APIで使用するポート一覧

格納抽出APIにおいて使用するポートです。

LAN 送信元				プロト			
種別	サーバ	サービス	ポート	サーバ	サービス	ポート	コル
業務 LAN	クライアントPC	http	不定	開発実行環境 サーバ	Apache Tomcat	任意	tcp

# C.3 カスタマバーコード変換Web APIで使用するポート一覧

カスタマバーコード変換Web APIにおいて使用するポートです。

LAN 送信元				プロト			
種別	サーバ	サービス	ポート	サーバ	サービス	ポート	コル
業務 LAN	クライアントPC	http	不定	開発実行環境 サーバ	Apache Tomcat	任意	tcp

# C.4 アクセス権限コントロールで使用するポート一覧

アクセス権限コントロールで使用するポートです。

LAN		送信元			プロト		
種別	サーバ	サービス	ポート	サーバ	サービス	ポート	コル
業務 LAN	開発実行環境 サーバ	http	不定	開発実行環境 サーバ	OPA	任意	tcp
業務 LAN	開発実行環境 サーバ	http	不定	開発実行環境 サーバ	http	任意	tcp
業務 LAN	開発実行環境 サーバ	http	不定	開発実行環境 サーバ	WebDAV	任意	tcp